

# 大分三扇会20年の歩み

—高崎経済大学同窓会大分支部創立20周年記念—



高崎経済大学同窓会大分支部



# Contents

□ 発刊にあたって	高崎経済大学同窓会大支部 支部長	豊田 博志	.....	1
□ 創立20周年に寄せて	高崎経済大学 学長	村山 元展	.....	2
	高崎経済大学同窓会 会長	富沢 好隆	.....	3
□ 会員からのページ	<b>高経大・人生・回想・所感</b>			
	▪ 房 前 隆 也 (6回生)		.....	4
	▪ 大 野 謙 治 (8回生)		.....	6
	▪ 志 村 学 (9回生)		.....	8
	▪ 豊 田 博 志 (10回生)		.....	9
	▪ 平 山 文 彦 (10回生)		.....	10
	▪ 船 石 秀 正 (10回生)		.....	11
	▪ 中 村 詠 三 (12回生)		.....	12
	▪ 本 田 敏 行 (12回生)		.....	13
	▪ 後 藤 直 樹 (13回生)		.....	15
	▪ 篠 田 博 明 (13回生)		.....	16
	▪ 辛 島 宗 紀 (19回生)		.....	18
	▪ 木 村 和 宏 (19回生)		.....	19
	▪ 梶 原 智 敏 (21回生)		.....	21
	▪ 後 藤 誠 一 (21回生)		.....	22
	▪ 吉 光 俊 之 (22回生)		.....	23
	▪ 後 藤 康 男 (23回生)		.....	24
	▪ 二 宮 修 治 (26回生)		.....	25
	▪ 古 谷 俊 之 (26回生)		.....	26
	▪ 椎 原 猛 (27回生)		.....	27
	▪ 祝 出 恵 美 (30回生)		.....	28
	▪ 中 濱 未 喜 (32回生)		.....	29
□ 高崎経済大学同窓会大支部 大分三扇会のあゆみ			.....	30
□ 総会集合写真集 (第10回～第21回)			.....	32
□ 高崎経済大学同窓会大支部 大分三扇会会則			.....	34
□ 高崎経済大学 学章&沿革&学歌			.....	35
□ 初代 寺嶋会長 □ 編集後記			.....	36



## 高崎経済大学同窓会大分支部 「大分三扇会20年の歩み」発刊にあたり

高崎経済大学同窓会大分支部 支部長 豊田 博志



高崎経済大学同窓会大分支部（大分三扇会）会員のみなさまには、ご清祥のこととお喜び申し上げます。

今般、大分支部創立20周年の節目にあたり、支部活性化策のひとつとして、「大分三扇会20年の歩み」を作成いたしました。歩み作成にあたりましては、大学より村山学長、同窓会本部より富沢会長の温かいご祝辞をいただき誠にありがとうございました。

また当支部のみなさまより多くの寄稿文をいただいております。みなさまの「熱意と協力」のお陰で、大分支部の歴史に残る20周年誌を、お手元にお届けすることが出来ました。あらためて、みなさまに感謝申し上げる次第です。

大分三扇会は平成10年3月に発会し、第1回総会は16名の出席と記録でございます。同窓会大分支部の立ち上げは、遠隔地かつ少人数の状況の中で、しかも西日本地区では比較的早い時期でした。

これはひとえに故寺嶋康純氏（初代支部長）のリーダーシップのもと同窓生先輩方の一致協力の結果でした。20年の歩みを大切にしながら「大分三扇会」のさらなる発展を誓うところでございます。

本年6月、同窓会全国支部長会議に出席し、同窓会の存在、役割をあらためて考える機会を得ました。会議で出た各支部の課題はほぼ共通していて、次の二点でした。

- ①若い人たちの参加を増やしたい。そのために支部の魅力を高める必要がある。
- ②就職案内、説明会の充実を図る必要がある。

大分支部におきましても同様の課題と思われまます。

みなさまからの寄稿文には、大学時代や青春の思いが綴られています。我々高経大OBにとって、なつかしい高崎の街での大学生活はかけがえのない共有財産です。この共有財産をひとつの糧として、この大分の地で、それぞれの立場で、ご活躍いただくことが、大分三扇会の目指すところです。

寄稿文を読んで新しい発見があったり、親睦の輪がさらに広がれば、冊子作成の目的は達成されると思われまます。

最後に母校のさらなる発展と大分三扇会各位のご活躍、ご健勝を祈念して発刊の挨拶といたします。

## 大分三扇会 20周年に寄せて

高崎経済大学 学長 村山 元展



大分三扇会が20周年を迎えられ、大変おめでとうございます。  
大分県内で活躍される同窓生の皆様の高崎経済大学への熱い思いと、厚い友情の賜物と思います。  
また、日頃から地域で活躍される皆さんに心より敬意を表したいと思います。  
大分県出身の私としましても大変うれしく思う次第です。

さて、ご存知のように国内外の政治・経済は大きく変化しています。国内各地方の産業や経済はその波に襲われ、地域の力が問われています。高度経済成長期には新産業都市建設や観光振興、そして一村一品運動等により発展した大分県ではありますが、一層のグローバル化、AI・ロボティクスによる超スマート社会の到来、人口減少という現実の前に、新たな地域像が求められていると言えます。こうした課題に対応できる、地域に根を張る人材の育成こそが、高崎経済大学の使命と考えています。

高崎経済大学は60周年を契機に経済学部国際学科を新設し、グローバル化に対応できる人材の育成に力を注いでいます。また、全学生を対象に海外語学研修、海外フィールドワーク等を推進し、昨年度には300人の学生がこれに参加しています。

そして学内にはアジアを中心に100人を超える留学生が在籍しており、学内の国際化も進んでいます。他方、地方分権を背景に全国に先んじて設立された地域政策学部では、地域の現実を見据えた実践的な教育・研究を行っており、地方創生を担う優れた人材の輩出に努力しています。

ところで高崎経済大学は全県から学生が集う地方公立大学であることを大きな特徴としています。皆さんがそうであるように、若者が全国から高崎に集い学び交流し、卒業後は出身地等の地域社会で活躍する、そうした大学として高崎経済大学はあります。

ところが、現在の国の地方創生政策では地元高校生を地元にある大学に進学させ、地元就職させようとしています。つまり若者を地元で抱え込んでしまおう、地元外には出させないでおこうとしています。

若年人口の維持という点では理解できますが、そうして育った人材が、果たして地域・地方の多様性を理解し、多様な友人をつくり、地元を相対化・客観化できるでしょうか。高崎経済大学は国の地方創生政策とは全く逆の、本当の地方創生人材を育成しようとしていることを自負しています。

今後18歳人口が減少するにも関わらず、実は公立大学が急増しています。公立大学の数は国立大学を超えて93大学にもなっています。また、地方国立大学のほとんどが地域貢献を大学の目的として掲げており、国公立大学間の競争が激化しつつあります。

大学の生き残りには大学のブランド力の強化が必要となっているのです。では、高崎経済大学のブランド力とは何でしょうか。

一つは教育力・研究力です。高崎経済大学では上述の取り組みの他に、変化する社会で力強く生きるための汎用性能力を培う基礎教育の強化に取り組んでいます。

そしてもう一つのブランド力が卒業生の皆さんの各地で活躍している姿です。皆さんのご活躍にあらためて敬意を表するとともに、今後の大分三扇会の更なる発展に期待したいと思います。  
大分三扇会が20周年を迎えられたこと、まことにありがとうございます。



# 大分三扇会 20周年に寄せて

高崎経済大学同窓会 会長 富沢 好隆



大分支部（大分三扇会）会員の皆様、大分支部創立20周年誠におめでとうございます。この20年間、大分支部の創立・運営にあたってこられた歴代の会長はじめ会員の皆様、関係者の皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。

高崎経済大学同窓会は昭和40年に発足以来、これまでに全国各地に支部が設立され、現在では30の同窓会支部がネットワークを構築し様々な活動をしています。

大分支部は、平成10年3月に大分三扇会としてスタートして以来、九州にある唯一の支部という状況でしたが、平成28年に鹿児島支部が発足後は、同じ九州にある支部同士で互いに連携をとりながら、同窓生同士の交流を深め同窓会支部の活動に取り組みられてきました。

同窓会の主な活動として、在学生の就職活動支援を行っていますが、毎年開催される「OB・OGによる就職相談会」など大学の就職支援事業に、大分支部からも会員を派遣していただいています。

この場で必要なアドバイスや地域の就職情報など、在学生にとって有益な情報を提供していただくこの事業は、就職活動を迎える在学生たちの大きな力となるとともに、同窓生との触れ合える非常に貴重な機会でもあります。

これからも同窓会は、大学との協力関係を強化し、在学生の就職支援活動を実施していきたいと考えております。

同窓会活動の課題として、若い世代の支部活動への参加が少ないことが挙げられます。大分支部においても例外ではないと思います。今後30周年、40周年に向けて、同窓会そして大分三扇会を活性化させていくためには若い世代の会員の協力が欠かせません。

まずはより多くの若い同窓生に同窓会活動について知ってもらうことが重要と考えています。そのためにも皆様の在学時の友人、地元の先輩後輩、職場の同僚等のネットワークを通じ、同窓会の活動及び同窓生の地域社会での活躍をアピールしていただくとともに同窓生相互の親睦の輪を深めていただくことが不可欠ではないかと思えます。その結果として、多くの若い世代の同窓生に同窓会活動への興味を持ってもらい、参加者の増加につなげていければと考えています。

また、同窓会の財政基盤の健全化を図っていききたいと考えています。同窓会運営の財源は、学生が入学時に納入する同窓会費であります。この限られた財源の中で同窓会の活動を実施していくためにも同窓会運営の無駄をなくし、一層の合理化に努めていくとともに各方面からの寄付を積極的に呼びかけていきたいと考えています。今後とも大分支部の皆様のますますのご協力とご支援をお願い申し上げます。

結びに、大分三扇会のますますのご発展と、支部長はじめ会員の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。

## 回 想

昭和40年卒 房前 隆也 (61-624)

私は昭和40年(1965年)卒業で丁度東京オリンピックの翌年で第6回の卒業生で、卒業後54年がたちました。77歳の喜寿を迎えていよいよ終活の年齢となっています。

3年前に父が百一才の長寿で他界し両親をおくり昨年は故郷竹田の家を解体整理して墓も大分に移転を済ませ今ほっとしている現況です。

本年6月にほんとうに久し振りに高崎に行く機会があり訪れました。妻が俳句が趣味でNHKの伊香保俳句大会に応募してたまたま賞を得たので高崎に行くのもこれも最後と思い終活の一端として急に思い立ち三十年振りに出掛けた次第です。



(正門前にて)

在学時を思い出すと高崎経済大学は当時はいわば草莽の時代であって周りは樹々余りなく殺伐とした感じがしたものです。

故郷竹田から高崎へ行くには豊肥線で朝竹田を出て大分へ、大分を午後七時頃出る急行「高千穂」号にのり東京には翌日昼ごろに着き上野駅で高崎線に乗り換え高崎に着くのは午後三時ごろだったとおぼろげに記憶しています。

丸一日がかりの行程で大変で、疲れた思い出があります。汽車賃は学割を使い二千円弱程度だったと思います。下宿は3度程変わりました。

最後は高崎駅裏(今は東口)の栄町にいました。下宿の2階から赤城山の山容が遠望出来ました。赤城山は裾野が広く雄大ですが赤城山を

コンパクトにするとどこか竹田から見る久住山に山容が似ていてほっとしたものです。

若い時私は山登りが割りと好きで、赤城、榛名、妙義の上毛三山また草津白根山、谷川岳に登ったこと、山々の紅葉の見事だったこと、また尾瀬の清冽な自然を経験できたことはすばらしい思い出として残っています。

今回、母校では学生課を訪ねた後、構内を見て回りました。時を経て、当然のことですが設備も整い快適な学生生活を送れる環境がうらやましく思いました。ラグビー部のグラウンドに立ち、特に感慨深いものがありました。



(思い出多き ラグビー場にて)

一年生の秋に下宿に寺嶋先輩が訪ねてきて、ラグビー部を創部したいが人員をまず集めなければならぬので是非入れと勧誘されたので自分は体のサイズがないので無理だと断るとお前が足の速いのを知っていると、その後も熱心に誘われて断りきれず入部したのですがその後は大変で創部の雑用、寄付金集めまたグラウンド造りから始めました。

観音山の麓から土を集めトラックに載せて運び整地をしてグラウンドを造成するなど色々大変だったことを思い出します。

北関東リーグに加入して優勝こそしなかったが結構成長していた矢先に三年生のときに軽井沢での夏合宿で四年生の先輩部員が練習試合で死亡する事故が起こり大変でした。



出身の愛媛県の新居浜での葬儀に今は亡き寺嶋先輩と行った悲しい思い出もあります。

その後そのこともあり成績不振に陥り四年生のとき、最後の試合の前まで全敗で最終戦の確か宇都宮大戦で私の最初にして最後のトライで勝利したのを鮮明に覚えています。

大学への通学は栄町から踏切を渡り元町から並榎を抜け桑畑を通して自転車で行っていました。今回高崎駅からバスで大学まで行ってみました。停車する町の名を聞いて昔を思い出したりしました。

大学から駅までの帰りは地域のコミュニティバス(グルリンバスの名で二百円で全線のれる)に乗りました。市役所付近や医療施設等市民の足となる便利な路線のようで音楽センター等懐かしい建物を見ることが出来ました。

市内は時の変遷で建物・施設は立派で見違える様になっています。駅前のビル群また高崎駅の規模の大きさ立派さには目を見張る程でした。

併せて駅裏(東口)の開発発展は昔を知る(栄町に住んでいた)者として驚きでした。



(図書館前の噴水にて)

旧高崎競馬場跡は国際会議場として立派なコンベンションセンターとなり駅からコンベンションセンターまで一直線に高架の歩道橋の工事が進んでおり本当に時がたったなと実感しました。

下宿の跡を探しましたが判らず仕舞でした。

下宿していた当時、近くで高崎市の体育館が新設されその工事に土方のアルバイトをしたことがあってその体育館が残っているのを見つけましたが隣に立派なスポーツセンターが建っており当時の体育館は近々取り壊しの運命にあるのではないかと思いましたが一部残っているのは懐かしく感じました。



(白衣大観音)

高崎での最後に観音山の観音様の胎内に登り高崎市街を一望しました。観音よりの帰りに高崎だるまを売る店に立寄りだるまを買いました。だるま店には多種多様なだるまを製作、陳列、販売をしており、だるまを製作する所は29軒あるそうで一子相伝の形でこれ以上増やさないとのことでした。

私は一昨年大病をしました所幸回復しておりますが健康には注意を払っていてウォーキングやゴルフクラブの素振りを毎日続けています。

夢のまた夢ですがエイジシュートをする事を目指しています。叶わない時はあと5年の八十二歳までゴルフを続けられたらだるまに目を入れるつもりで頑張りたいと思っている此の頃です。

## 高崎の青春と私の人生

昭和42年卒

大野 謙治 (63-099)

夜中に布団の中で七転八倒の苦しみにもがいている枕元で下宿のおかみさんが洗面器を片手に私を心配そうに覗き込んでいる。

昨夜の夕食のサバが当たらしい。海のない群馬では良くある事なのかわからないがとうとう朝まで一睡も出来なかった。

高崎へ来てまだ1年もたっていない倉賀野の下宿先での出来事だった。

大学入学が決まって下宿(アパート)探しには早く来たつもりだったが大学で紹介された住所は大学からはかなり遠い場所となった。

何よりも通学が大変で列車の便があまり無いためバスを乗り継いでの通学だった。

当初は二食付きで二階の一室を間借りすることにした。家主は中学校の教師でお陰で家庭教師のアルバイトには当初より不自由することがなかった。先生が生徒を10名以上も世話をしてくれ、さながら寺子屋のようであった。

結局、大学二年までこの下宿へ世話になることになった。

数年前同窓会の総会に出席した折、倉賀野を半世紀ぶりに訪ねたが面影のひとかけらもなく郷愁にひたる景色もなく残念だった。

大学生活は勉強よりもアルバイトに忙しく正直勉強にいそむどころではなかった。

ただESSでの活動は楽しく、九州・四国の親友も出来、今でもその仲間との交流が続いている。

当時も高崎から東京へは列車でわずか一時間強で行けたので高校時代の同郷の早大の同級生に会いに行った折、旺文社の英語の参考書と名講義で有名な西尾教授の講義も一度や二度受けたものである。

在学中に駐日アメリカ大使のライシャワーさんが高経へやってきて話を聞くチャンスがあった。確かESSのメンバーの一人が高経大の認知度の低さを質問した折、大使は我々が卒業しても大学の実績をしっかりと積み重ねる事によって社会に広く認知されると答えられた事が印象に残っている。

二年になってしばらくして倉賀野を引き揚げ今度は大学に近い上並榎町で同学年三人と生活を始めた。このアパートは食事がついていなかったたので、お互い小さな鍋で米を炊き、ほぼ毎日定番の ” たまごかけご飯 ” であった。

大学時代に嬉しかった事が二つある。

まず大学二年に東京オリンピックのスタジアムで陸上競技を観戦出来た事である。貧乏学生がどうしてチケットを手に入れたのかは、今では定かでないが多分バイトで貯めていたのであろう。高校時代陸上部にいた私にとって国立競技場で超一流のアスリートをこの目で見られた事は望外の喜びであった。

もうひとつは北海道出身で国体のスケート選手に榛名湖でほぼ特訓に近いコーチを受け、滑れるようになった事である。

栄養失調になっても不思議ではない食生活だったと今では思っている。しかし当時は20才の食べ盛り、始終空腹であった。その折、先輩の紹介で花王石鹸の工場でアルバイトを始める事になったありがたい事に昼食つきであった。12時のサイレンがなると高経の学生のみが食堂へダッシュである。大盛りのどんぶり飯を平らげ日頃の栄養不足が補えた次第である。

卒業時は折からの就職難の時期だった。親からは地元で就職することが条件だった。

幸いコネで地元の銀行に内定していたが、折からの厳しい経済情勢の為、多くの会社が卒の採用を見送り銀行員の夢もついでに失った。

あわてて地元のデパート トキハへ学生証を手人事課に掛け合うことになる。

応接してもらった人事課長は高経大が全くわからず、怪訝な顔をしてこちらを見上げるばかりであった。なんとか入社試験までこぎつけ入社することになったが、大学の成績の良くなかった私にとっては幸運であった。

会社を退職して直ぐ、JAICAの青年海外協力隊でスリランカで一年働く事になったが、ここでの毎日の食生活が高崎の大学の食事を思い出させるものであった。

ホテル(簡易)では、一人の為、洗濯・食事すべて自分でやらざるを得なかった。

この国は食材が乏しく、朝は目玉焼きと硬いパン一切れ、それに町で調達したパイナップルがすべて(夕食も)。

一年後帰国した時には6 kgやせてしまった。洗濯機などは無論なく硬い石鹸で衣料は足で踏み外に干した。余談だが軍隊のない我が国では若い青年海外協力隊員にとっては発展途上で働くことは貴重な体験をすることになり、企業にとっても得難い人材を獲得できることと思う。

さてその英語も当時高崎の町でネイティブを見つけることは殆どなく仲間との会話がのちに会社で働くことになった時にずいぶん役立つこととなる。

グローバル化の現在、英語の勉強はデジタルによって飛躍的に向上し自宅にいながらネイティブと会話できる時代である。

だが、不思議なことに大学生の英語力は我々の時代と比べるとさして向上していないとの事。



(サクスの名？演奏を披露)

私の好きな作家のひとりで吉村昭に「冬の鷹」がある。中津藩の藩医前野良沢と杉田玄白の解体新書を作り上げたいきさつの話である。

前野良沢は当時オランダ語の辞書もない中、困窮の身で一心不乱でほぼ一人で翻訳に当たった訳であるがオランダ語の辞書のはし切れを拾い集めたエピソードもある。

まさに何を成し遂げるにも高いモチベーションが必要である。

入社しデパートという流通業であった事もあり、国内はもとより30代後半の仕事は会社のみでなくJETROの仕事に関わって、ヨーロッパ5ヶ国で買い付けを行った時も高経大時代卒業まで続けた国際語としての英語が多いに役立った。

今、人生の黄昏を迎えて思うことがある。

イギリスの歴史家・評論家で後にエディンバラ大学の学長になったトーマス・カーライルの言葉である。

Adversity is sometimes hard upon a man,  
but for one man who can stand prosperity,  
there are a hundred that will stand adversity

今も、私の座右の銘である。

高崎経済大学は、北関東群馬県にあり、まさか九州大分県から入学する人はいるのか？といささか不安な気持ちで、急行「高千穂」に乗り、24時間かかって東京駅へ、さらに上野駅から急行にゆられて3時間半、ようやく高崎駅に着いた、長い長い道のりであった。

初日は私の祖父の旧知で、唯一高崎市にお住いのM氏宅に厄介になり、そのM氏宅は北高崎駅付近にあり、翌日、大雨の中、30分以上も歩いて大学に出向き、学生課にて下宿先を紹介された、その下宿O氏宅は、つい最近ご主人が他界され、ご葬儀直後の様子で、泊った部屋にはまだご遺骨が祭られておりました。

あまりにも不敏だということで、次の日別のO氏宅を紹介され、3度目の引っ越しでようやく下小埜の下宿に落ち着いたのです。入学早々とんだ学生生活のスタートでありました。

いつか経ったある日、大学へいつものように行くと、正面玄関に、「不正入学阻止全学生決起大集会」の大看板が立ち、リーダーらしき長髪の男が拳を振り上げて大演説。

田舎者の私共は右往左往するばかり。大学は閉鎖される始末。どうゆう訳か、私達に東京の大学へのオルグを命ぜられた。たまたまM薬科大学に従兄弟が在学中であり、訪問し大学自治会を紹介された。事情を説明し支援を要請するも、けんもほろろで他山の石と決めつけ、がっくり肩を落として高崎へ引き返した。

騒動はますますエスカレートするばかりで、結局、我々はある日、全学生が「高崎市役所内に座り込みをせよ」との命を受け、実行された。

座り込みはしたものの、即、強固な群馬県警機動隊につまみ出され、あつという間の出来事であった。

気分の治まらない私は先述の初日にお世話になったM氏は群馬県警察のお偉いさんであったため、つまみ出されたその足で高崎署にM氏を訪問、不覚にも抗議するなど、今思えば、ぞっとする不条理なことを学生の身分とは言え、誠に恥じることでありました。

ところで、私の妻は群馬県は南牧村出身で、かつて高崎市柳川町の「おしゃれデパート」の化粧品売場で働いていて、その時知り合い、今年で結婚53年、金婚式も迎え、恙なく暮らしております。

昭和54年私が地元国会議員の秘書となり、大分県に帰省することとなり、妻は前職を生かし

て、ポーラ化粧品の美容部員として勤め、その後ポーラ化粧品新臼杵営業所を設立し、所長としてポーラ化粧品大分販社に度々出向く機会が多かった。

私が平成7年春の県議選に出馬、当選をした。新聞記事の履歴を当時、ポーラ化粧品大分販社の寺嶋康純経理部長から妻に、御主人は高崎経済大学だから、大分三扇会に出席するように、ご案内を頂きました。

寺嶋康純先輩のお心遣いに改めて、感謝御礼申し上げます。

私はこの春の県議選で7度目の当選を果たすことが出来ましたが、実は大分三扇会出席以降、選挙の必勝だるまは、大学同窓会から、高崎少林山の高崎だるまを頂戴し、願をかけ、お陰様で7期連続当選、副議長、議長を歴任、今は県議会自由民主党議員会長とし全力を尽くしております。これも偏に寺嶋康純初代会長をはじめ、会員皆様方のお陰様であり、心から感謝御礼申し上げます。



(だるまに目を入れる志村候補と甲斐支部長・当時)

さて、高経大の前学長、石川弘道氏は前農林水産事務次官でられました。

当時、経産省事務次官であった、現大分県広瀬勝貞知事と昵懇の仲と開き及んでおり、また現学長、村山元展氏は大分県立舞鶴高校出身で、同級生には、吉良衆議院議員、足立参議院議員、前参議院議員の磯崎氏がおり、大分県にとって、高経大とは今、ベストの関係であります。

地方創生の時代を切り開くことが今、問われており、高経大の「地域政策学」は全国でも注目を集めており、地方を創る人材を輩出する、唯一の先進な大学であり、大分県の若者にもぜひ「高経大」で学んで、将来の大分県発展の有為な人材になるべく、私は微力ながら、支援を惜しみません。

高崎経済大学の発展と大分三扇会、会員皆様のご多幸をご祈念申し上げます。



## 思い出

昭和44年卒 豊田 博志 (65-392)

みなさま お元気でご活躍のことと思います。  
からっ風吹く下宿までの坂道、何度も行った榛名湖、夕日に映える雪の浅間山、ミズバショウ花咲く尾瀬ヶ原も、今はかけがえのない半世紀前の懐かしい思い出です。

最近大学を訪ねる機会がありましたが、学内は建物(教室)も増え、図書館も充実し、樹木は60数年の時を刻んでいました。慣れ親しんだ9番教室はありませんでしたが、図書館ではゼミ単位にまとめた立派な【卒論集】を見つけることが出来ました。

我々の大学の特色は、地方の公立大学としては全国から学生が集まっていることではないでしょうか。高経大で学んで得たものの一番は「全国に友達」が出来たことです。みなさんも同じ想いかと思います。

私の大学生生活の前半はグリークラブで黒人霊歌を歌い、後半はゼミ仲間と議論し、よく酒を飲んだものです。

卒業後もクラブやゼミの全国の友人達と連絡を取り合い、各地を旅行したり交流を続けています。先日も群馬の友人と赤城山に登り、夕刻には高崎市内の思い出多い喫茶「あすなる」に行きました。



(あすなるの前で・写真は2年前)

社会は人間関係の積み重ねだと思われまます。同窓生の少ない当地においては、経大OB一人ひとりがお互い貴重な関係です。

若い頃のつながりに加え、それぞれ責任ある立場になった時、取引先に同窓生がいたことは、本当にありがたいものでした。今後もこうしたご縁を大切にして、支部活動を通して広げていきたいと思っています。

仕事に区切りをつけた60代後半、ある先輩から”3かく”を勧められました。最近はこの3かくを大事にしています。

1. 汗をかく  
(ゴルフ、ジムの利用、家庭菜園作り、上達しない太極拳、ウォーキング)
2. 恥をかく(高齢女子にまじってオカリナ教室、発表会演奏)
3. 字を書く(旅行記、自分史、脳活ドリル・パズル)

大分支部でゴルフ会をやりたいと思っています。ご参加を期待します。

母校の発展には、卒業生の役割も非常に大きいものです。

若いみなさま、現役世代のみなさまの、なお一層のご活躍を期待しております。



(榛名湖・榛名山)



## 尾瀬でのOB会

昭和44年卒 平山 文彦 (65-492)

生物部のOB会を開催するとの案内が届いたのは、卒業してから40年近くが過ぎた平成20年頃のことであった。場所は尾瀬ヶ原見晴らしにある「弥四郎小屋」で、とのことである。



(弥四郎小屋)

入学は昭和40年4月、多くの部活の勧誘がある中で、高校時代からトレッキングに興味があった関係で、そうした類の部活を模索していたが、「山岳部」はとても無理、「ワンダーフォーゲル部」にも多少興味をもったが、結局、水芭蕉の尾瀬を背景にした募集ポスターに惹かれ、なんとなく「生物部」に入部することとなった。

大学では入学と同時に、いやおうなしに、学生運動の走りといわれる経大紛争の渦に巻き込まれてしまった。

当時の市長と市議会議員の一部が、「市の予算で作った市立大学でありながら、高崎出身の学生があまりにも少ない、なんとかしろ」というわけで、70名あまりの学生を「委託学生」（後に聴講生と名前を変えたが、いつの間にか正規学生と同じ扱いになったと記憶している）として受け入れろと強要したのが始まりで、私学への売却、授業料の値上げなど次々と難題を持ち掛けられ、なす術の無い学生は、その都度、デモ行進や学内、市役所への座り込み、ハンガーストなどで抵抗した。

なんとか十月頃になって、多くの不満を抱えながらも、形だけは正常な状態を取り戻すこととなった。

この運動に対して「中核」「核マル」などの介入もみられ、純粹さに歪みが出てきたのも事実であった。

大学の正常化とともに部活動も本格活動を始めた。活動のフィールドは上毛三山をはじめ、浅間山、八ヶ岳、霧ヶ峰などであるが、もちろん尾瀬はその中心である。

というのも、冒頭に記した「弥四郎小屋」は尾瀬でのアルバイトの山小屋として部で引き受けていた。都合がつく限り金曜日に高崎を出発し、沼田駅から東武バスで富士見下まで行き、あとは歩きで富士見峠、竜宮を経由し約5時間の行程で見晴し「弥四郎小屋」へと着く。

月曜日の帰りもほとんど同じ工程が基本であった。



(ミズバショウ)

尾瀬では、前後の休暇等を活用し、至仏山、燃岳、尾瀬沼、三条の滝、桧枝峠など殆どのルートを踏破したつもりでいる。

さて、冒頭のOB会であるが、卒業以来40年以上が経過し、体力もまちまちであることから、幹事は一番楽と思える「鳩待峠」のコースを選択してくれた、草紅葉に燃える秋の尾瀬ヶ原は天候にも恵まれ、往時に比べると木道なども各段に整備されていた。

夜は見晴しの良い二階の大広間で、大分から持参した麦焼酎を酌み交わしながら楽しい一夜を過ごした。再開を約しながら。



(尾瀬)

## 大学時代の思い出

昭和44年卒 船石 秀正 (65-518)

私が高経に入学したのは昭和40年のことだった。入学後バレー部に入るとすぐ先輩から浜川の下宿に連れて行かれた。

8人ほどの小さな下宿だったが、グリークラブや美術部、バレー部などの先輩たちがいて、何かという飲み会をしていたような記憶がある。

バレーボールは中学時代からやっており、練習を見てあまり厳しくなさそうだったので入ることにした。指導者もない同好会のような弱小チームだったが、大学では部活中心で過ごしていた。

同学年が7人いて卒業後は榛名会と名づけた同窓会を何年かに一度は開催している。

忘れられない思い出の一つは、大学祭の駅伝大会である。駅伝は1年生の時、下宿でチームを作って参加したことがある。このときは元陸上部のエースがいたため初めはトップを快走、だんだん順位を下げたものの、最終的には運動部員2人以内の部で2位という好成績だった。

ところが4年生の時、バレー部の4年生チームと3年生以下チームで参加したときのこと、最終区まで4年生チームのほうが先行していたのが、アンカーの私のところで途中歩いてしまい、後輩チーム、それも下宿の後輩に抜かれてしまい、同窓会で飲むたびに同級生から冷やかされるという苦い思い出がある。

もう一つの思い出は、大学時代から始めた合唱のことである。下宿にいたグリークラブのK先輩から合唱を勧められ、市内の混声合唱団に入団した。

その活動の中で定期演奏会や群馬交響楽団との共演などいろんな体験をさせてもらい、合唱の楽しさに目覚めた。

おかげで、今も元の職場や一般の合唱団で歌い続けている。二十数年前、転勤で東京にいたとき、むこうの男声合唱団で下宿の後輩で元グリークラブのS君と偶然再会したのも忘れられない。

また、学生時代から近くの山にはよく登った。下宿の仲間やクラブの仲間と尾瀬や浅間山、谷川岳などに行った。

特に、4年生でクラブの現役を引退してから後は富士山や北岳、槍ヶ岳、穂高岳など多くの山を登り、それ以降登山が私の趣味の一つになっている



(尾瀬の至仏山にてバレー部の仲間と)

## 50年ぶりの高崎訪問

昭和46年卒

中村 詠三 (67-480)

おとし(平成30年の初夏)、親戚の祝事で宇都宮まで行ったので、約50年ぶりに高崎を訪ねてみました。

高崎駅からバスに乗り大学を目指しました。駅の様子も町中の様子も大きく変わって、なんか場違いのところに來てしまったなあという感覚でしたが、大学に着き、正門前に残っていた富士屋食堂(廃業と聞きました)が目に入った途端、入学した当時が懐かしくよみがえりました。

私が入学したのはS42年(1967)、開学(1957)から10年たったばかりの新しい大学でした。学歌に「高崎経大われら若し、真理を求めて常に若し．．．」そしてその後「時流はいかに荒れ狂うとも．．．」という歌詞があります。

私が入学した当時は、まさにその「時流が荒れ狂っていた」時かも知れません。

高崎市出身者の優先入学問題に端を発した学生運動が、中央の「中核」だとか「革マル」だとかが入り込み次第に先鋭化していく過程の中にありました。

そういう環境ではあったものの私自身は、大学に入ったら、勉強はすべし、部活動もすべしという普通の学生でした。

部活動は、高校時代に少し経験のあった、バドミントンに入部しました。

選んだ理由は、失礼ながら部員も多くなく、しばらくしたらレギュラーで出れるかなあというところでした。当時はバドミントンそのものがマイナースポーツで、体育館の片隅で細々と練習をやっているような状況でした。

その懐かしい場所も今はなく、新しい立派な体育館になっていました。

(ただし、現在のバドミントンは世界のトップレベルの選手が何人もおり日本のお家芸的なスポーツに成長し東京オリンピックでも複数のメダルが期待されるまでになっています。私としては嬉しい限りです。)

学生運動の影響もあり、大学があまり面白くなくなっていた私は、ただひたすらにバドミ

ントンの練習をしました。ほぼ毎日体育館で練習をし、時には烏川を渡って、達磨寺まで走ったりしました。

部活動の中で、マネージャー的役割も兼ねていた私は、体育会の本部との予算交渉とかを経験していくうちに、(社会人になれば当たり前のことですが)、権限を持った人といかにうまく上手に付き合っの必要性とか、各大学との対外試合の調整とか諸々の事を経験しました。又部員をいかに統率していくか等の貴重な経験もしました。

学業のほうは高階先生の「西洋経済史」のゼミを取りました。「歴史は辺境に始まる」という基本的な考え方が根底にあったと記憶しています。今でも歴史には興味ありいろんな出来事が起きた時、経済史的概念で物事を見る習慣があります。

人生の内の貴重な4年間を高崎経大で過ごしたことは、その後の人生を乗り切っていく上で大変力になりました。

その日の内に大分まで帰る予定でしたので数時間しか高崎にいられませんでした。50年間のいろんなことが走馬灯のように頭をよぎった時間でした。

できて聞かなかった大学も50年間で立派な大学になり、自分もそれなりに50年間何とかやってきた。お互いに頑張ったなあとの思いで、もう来ることもないかもしれない高崎の地をあとにしました。



(ランニングの目標地点? 達磨寺)



# 大学時代の思い出

昭和46年卒

本田 敏行 (67-614)

(長崎市 在住)

卒業して48年、まさか大学時代の思い出を書くとは思いませんでしたが、いい機会と思い、何とか思い出しながら振り返ってみました。

当時の長崎市内の県立普通高校は、長崎東・西・南の3校で、校区割がしっかりしていて、私は、長崎南の4回生です。

その年、長崎北高校が開設されラグビーを知ったのは、テレビドラマと体育の授業でした。中学の友達と話し合い、彼は柔道、私はラグビー、中間をとって野球部にしました。

野球の練習は長く外野で球拾いしながらラグビーの練習を見ていました。

友達は即やめました、夏過ぎまで続け、膝に水がたまり運動禁止になり退部。

ラグビー部は高体連で優勝するほど強かった。野球部は1回戦突破もままならぬ弱小チーム。

2年の時、中学のサッカー優勝メンバーが入部するので廃部。何人かはラグビー部へ移籍した。

顧問から誘われるも膝の件で断る。大学でのプレーを夢見て学校を選ぶ。

国公立で選択科目が数学Ⅰ・Ⅱで高崎に決める。長崎大学経済学部は落ちる。

昭和42年、入学式前に東京にいた姉と大学に行く、今頃来ても下宿屋はないと言われたが、学校の前の大きな寮を紹介された。

そこで学生運動のリーダーの部屋に呼ばれて、いろいろ話を聞くも、ラグビー部に入りたいと言うとそれで終わった。

そのせいではないが勉学の意欲をなくした。翌日練習を見に行き、即入部する。その日、2年生の部屋で新入予定者3~4名の歓迎会がありました。最初に日本酒の早飲みがあり、一気飲みした。

目の前に寿司があったのは覚えているが、その後何杯か九州男児とおだてられ飲んだらしい。その後嘔吐しぶっ倒れたとのこと。

翌日先輩の部屋で目を覚まし、状況を知る。

初めての二日酔いに苦しんだ。しばらくは匂いだけで気分が悪くなった。

1ヶ月も居なくて4年生が下宿先が変わるので強制的に後釜に入れられた。

そこにはラグビー部員が何人かいた。練習は問題なかったが、合宿前の練習で顔・腕に塩が吹き火傷みたいになった。当時は、練習中や試合で水分をとることはタブーだった。

合宿(長野県菅平高原)前、費用を捻出するため全員で深夜、蚕の乾燥のバイトをした。

合宿中、ごはんの給仕をするため、早食いするようになった。

先輩の1杯の前に食べないと次々に給仕しないといけな。

合宿が終わると詰襟につける銀バッチがもらえた。何人かは辞めていった。

2年生になり、同級生がいた高崎駅近くのアパートに移り、大家から日経新聞を読むよう言われる。

また、新入部員を勧誘、夏休みに後輩と長崎に向かうが、東京で特急列車に乗り遅れ初めて新幹線に乗り静岡まで行き乗り換える。

前期試験の1日目の夜、翌日は持込み試験だったので、皆で近くの喫茶店に行き、ウイスキーを1~2杯飲む。友達がアパートに来ており、50CCのカップを借り、大家(米屋)のガラス戸に突っ込む。

友達が機転を利かせ、タクシーでラグビー部かかり付けの病院に行く。

翌朝、ラグビー部員と分かり、再手術。右太股の中から26針、顔、手も縫う。

入院当初、純情だったので尿瓶が使えず、試験中にも関わらず時間ごと何人かずつ交代でトイレに連れて行ってくれた。

同室にダルマ売りのテキ屋さんがおり、仲良くなって酒を飲んでいたら、傷口がふさがらず先生が不思議がった。

1ヶ月以上入院し練習に参加。試験は受けられず。後期試験中に、駅裏の同期の部屋で4年生(2人)の送別会をすると呼び出され参加。

初めてサントリーオールドを飲む。

翌日、レモンをかじって学校へ。正門前で嘔吐。医務室に薬を貰いに行くと、先生が見ており、薬といって胃の洗浄剤を渡された。

試験が始まると即、手を挙げてトイレへ。名前を書くのがやっとな同期の部屋で寝る。

初めて血が出た。その日の試験は受けずじまい。同席していた仲間も同様。その後の試験は無事終了。

東京三洋(パナソニック)と群馬大学医学部との練習試合で左足外側の小さな骨を骨折。医大生が木片で応急手当。初めて救急車に乗る。高崎に帰って即入院、追試験受けられず。

前期・追試とも受けず幹事長が心配してくれ、いろいろご苦労して貰い、無事進級。

普通の授業態度(?)や練習態度、学校側への協力度等の評価、学生運動の激しい時でした。

3年生になり始めてアルバイトをアパート前のラーメン屋です。夕食と夜食つきで皿洗い、後で餃子焼き等。

高崎の選挙事情を知る。福田、中曽根どちらが最多票をとるかの激しい戦いだった。

バイト代は後輩の奢りや同期との飲み会、順番に持ち回りだった。

都立大学へ遠征した時、更衣室の教室で全員お金を盗まれ、カンパしてもらい帰った。

夏休み大阪万博があり、両親が神戸の姉の所へ来ており合流。帰り初めて飛行機に乗る。

YS11のプロペラ機でプロペラばかり見ていた気がする。

4年生になり、就職先を探していたら、会社案内で友達がヤマエ久野という会社を見つける。

募集要項に運動部歓迎との記事を見て、即応募。職種は総合卸とのことだったが、深く考えなかった。

先輩から、面接ではラグビー一筋と強調せよとのアドバイスあり。

学業はと聞かれ金融論と答えると、唯一の優ですぬと笑われる。

北関東大会でライバルの新潟大学に勝ち優勝。新潟遠征の帰り、同期で佐渡島へ遊びに行く。

山梨出身者が初めて船に乗るとからかっていたら、私が帰りの便でひどい船酔いになった。

南関東代表の信州大学との試合で、終了まじか、センターが反則をとられペナルティゴール決められ敗戦。初めて号泣する。昭和46年3月、高崎に残りたくて、ぎりぎりまで残る。5人兄弟で末っ子の長男。しぶしぶ帰る。社会人になって、ラグビーをやってよかったと思ったことは、

①何事にも逃げず、まっすぐ前進すること。新入社員の頃、得意先から無理難題、理不尽なことで呼び出された時、向かう途中の車の中で合宿前の終わりなきランパスの苦しさを思い、校歌を歌いながら気合を入れ対応しに行った。

その後、電話で言い訳をせず、即訪問し、対面で対応した。支店長、社長になっても貰いた。

部下も同席させ、徹底的に指導した。

## ②怪我は鍛えて治す。

ラグビー部時代、2回も大怪我をしたが、即練習させられ、練習しながら直せの時代。

45才になったばかりの大晦日の夜、帰宅後帰省の用意途中に、くも膜下出血で倒れる。

ICU(集中治療室)に12~13日、意識はあったらしいが記憶はない。

ベッドの上で暴れるので身体を縛られ家内が付き添ったとのこと。詳しくは話してくれない。先生がすごい体力と感心され、何をされてたのですかと聞かれ、大学でラグビーをとっていると納得したとのこと。

その話を聞いて、学生時代の貯金は使い切ったと認識し、再度体力づくりに励んだ。

最初、歩けなくて整骨院に行くのもタクシー。徐々に歩行距離を伸ばして歩いた。

4月より入社するも、車の運転できず近所の課長に迎えに来てもらい、帰りは会社から駅、そこから電車を利用して、また駅から家まで

3~4Km、大雨の日も強風の日も毎日歩いた。

5月にアサヒビールの支店長から社内コンペに誘われる。その気になって練習始めるも身体は動かず、ボールも飛ばないが徐々に回復していった。当時珍しかった乗用カートでのプレー、噂が広まり、いろんな人から連絡があり、不死身の人と言う人もいた。

③学生時代運動をしていた人は、体力を過信する。

課長時代、体力・酒に自信があり、課員を連れて深夜2時・3時まで飲み歩き、6時に起床し会社へ行っていた。

課員にも徹底する。そんな無理・無茶を何年も続けていたのが1つの原因。

その後は、得意先との会食・課員との飲み会も10時までとした。年に何回かは深夜もあり。

④卒業時9名だった同期も、2名亡くなり現在7名です。

最後に、高崎に行って本当に良かったと思っています。

ラグビー部の仲間、地域の皆様の面倒見の良さ等に助けられ無事卒業ができました。

卒業式では2巡目の呼び出しでしたが、何も書いてません。

「上州のからっ風とかかあ天下」で鍛えられ、書けないことも多々ありますが、いい思い出です。

ありがとうございます。





## 高崎経済大学と同窓会の思い出

昭和47年卒

後藤 直樹 (68-253)

私が入学したのはタイガースの「花の首飾り」が流行していた昭和43年です。

最初、学生課の紹介で眺望荘という2階建ての建物が3棟ある寮みたいなところに入居しました。

部屋は3～4畳ぐらいの広さで、初めての一人暮らしが始まりました。

ところが不思議なことに、私の部屋の真上に、高校の同級生の篠田氏が入居していました。

2人で烏川の土手でツクシを取って食べてみた記憶がありますが、どちらも半年経たずに転居しました。

写真部に4年間在籍し、真保ゼミに所属していました。



### 学生時代の思い出は

- ① テントを担いで回った北海道の3週間。
- ② ゼミ旅行で返還前の沖縄に行ったこと
- ③ 写真部での様々な合宿、コンパ、展示会
- ④ 色々なアルバイトをし社会を経験したこと
- ⑤ 下宿仲間との家族同様の生活ですが、  
一番は、群馬の人たちが高経大生に優しくかったことで、「そうだね」が懐かしい言葉です。

卒業は昭和47年で大分銀行に入社しました。同窓会との関わりは、昭和51年県庁内支店に転勤してからのことです。

支店には房前先輩が在籍しており、県庁にも先輩方がいらっしゃいました。

当時、寺嶋先輩という方をリーダーとして県職員、トキハインダストリー、大分銀行の比較的集まりやすい人たちで同窓会を不定期に開催していました。

私が最初に出席したのは、52年頃春日町の歩道橋近くの焼肉屋で数名が出席していたと記憶しています。

同窓会が正式に大分支部となって、毎年開催されるようになり20周年を迎えます。

これだけ継続できたのは、歴代会長や事務局の皆様のご努力のおかげと感謝申し上げます。

同窓会が発足した当時は皆が現役でしたが、今では年齢層に厚みができました。

アンテナを高く掲げ新しい会員に参加を呼びかけて懇親の輪を広げ、年一回の出会いを楽しみにしております。



後藤直樹氏所有、在学当時の学生便覧・学祭（三扇祭）パンフレット・自治会報等。  
平成25年12月7日開催の大分三扇会総会にて同窓会本部へ寄贈されました。

## 回想

昭和47年卒 篠田 博明 (68-311)

私が高経大に入学したのは1968年、数年前からベトナム戦争が激化し毎深夜我が家の上空を岩国からのC130が南に飛び又、アーン大佐（白菊寮／ある兵士の賭け）の戦死が報じられるなど状況の厳しさが伝えられていました。

この為反戦運動が高まりを見せ、全国の大学では学園紛争が多発、日大や東大など全共闘運動が注目を浴びます。東大では入試が中止に追い込まれたり、日大では解決の合意を見たものの、時の総理佐藤栄作の介入を招き最後は力で抑え込まれます。

これが私には一番の教訓になりました。

そして70年の安保改定、代々木公園などには安保反対の大集団が集まり都心のデモ行進が繰り広げられました。

ヘルメットにゲバ棒の連中はいざ知らず、こうした平和裏に行われるデモには世間は未だ温かく（こうしたデモでも機動隊が突っ込んでくる事があった）土足のまま家の中へ匿ってくれたりもしました。

こうした盛り上がりも70年を過ぎると一部の先鋭化した部分を除き、急速に鎮静化していきました。

ただ、群馬ではこの後大久保清、次に連合赤軍の一連の事件が続き浅間山荘事件になります。こうした状況の下4年間を過ごしたわけです。

次に学内での事を振り返ってみます。

入学前は不正入学阻止、私学化阻止闘争で全国に名を馳せていましたので活発な学生運動を想像していたのですが、多くの退学処分者を出し高校かと思うほどの学則「自治活動に関する規定」で抑え込まれており沈滞した雰囲気でした。

この規定の撤廃は2年の秋学長の反社会勢力との会食の追求から実現しました。

4月になってから初めて大学に行き名物事務員の北条さんに何やってたんだいと怒られ大学前の眺峰荘に入れられました。

これが正解でクラブに所属もしないうちに多くの友人ができました。

隣室になった条君と話が合い、民俗学研究会を立ち上げることに同好会の申請に彼が行ったのですが、いきなり文化会傘下の部にされ挙句文学博士の学長が勝手に顧問になっちゃったと帰ってきました。

紛争収束過程で大学側組織として作られた文化会、会則には問題が多くすべての決定が教授会の承認を要するなど教育委員会が作ったなど思える内容でした。

有力クラブにそっぽを向かれ参加クラブも少数で弱体だったので少しでもテコ入れしたかったんでしょう。

この後皆は他クラブと2足の草鞋を履き民研は休眠状態になります。

私は眺峰荘の先輩に勧誘され生協と知的障害児の研究会に所属しました。

前者は商売に役に立つかなと思ったこと、後者はボランティア活動の為、高崎や渋川の施設に泊まり込みで行ったり、臨海学校に引率したり2年間楽しく過ごしたんですが民研が潰れそうだったんで2つを辞めこれに集中するはずだったんですが今度は文化会の副代表幹事に指名され3年に進級、この年市長選挙があり悪名（私学化）の住谷啓三郎が強力対抗馬に危機感を持ち文化会などにまで協力を依頼してきたのでこの際と各クラブに欲しい備品リストを出させ、予算の大幅増額とセットで要求してみたところ私と代表幹事の萩原2人が選挙カーに乗ること事務所に詰めることを条件に100%認めました。

多くの学生がいい印象を持っているわけがないのにバカだなーと思いながら乗りましたが。結果落選。潤沢になった予算を使って信州秋山郷の調査を始めました。

2年目は放送研究会と共同で、条は民話の収集を、私は総所得や所得内容、可処分所得の調査を、私達の卒業後も調査は継続されたようです。

余談ですが昨年秋50年近く前の村の開発計画の達成状況を見に行ってきました。

ロープウェイ以外は経済合理性から見て無理だろうと思っていたものまで、ほぼ実現していました。

こうした地道な活動の結果学生課にも信頼されてきたと感じられましたので、最終学年の秋文化会の解散、文連への一本化を極秘裏に目指し文化会会則の改定案を作成し名目は弱体文化会を立て直す為本部機能の強化する事とし教授会を通しました。

真の目論見は人には話せず唯一放研の代表が知っているだけでした。日大の件を教訓にここまでで卒業、後を託し指名した人たちによって達成され報告を受けました。今でも文化部全学組織は一本化されているようで喜んでます。

蛇足 追い出しコンパの折庄司学長に組合を作るといったところ1, 2年本の上で齧っただけの奴に何ができると小ばかにされ、野郎見ると10年ほどで達成。この時の感想は、「事は秘をもってなる」と言うけど秘のほうがよほど楽、裏切り、内通など心配しなくていいしと思いました。



(返還前の沖縄にはパスポートが必要でした)



(ユースホステル 旅して廻りました)





# 閻魔様に守られて

昭和53年卒 半島 宗紀 (74-111)

桜の季節になると、大学入学当時に下小堀の桑畑の中を新鮮な気持ちで通学していたことを思い出します。

履修届がどうのこうの、と考えながら。それも四月だけ。

だんだんと大学への足も遠のき、アルバイトに精を出し、遊んで回る日々。そんな大学生活でしたが、多くの友や貴重な経験を積むことができ感謝しています。

ただ、大切な勉強をさぼり、まじめに就職活動をしなかったため就職した会社も十か月で退社。アパート住まいのアルバイト生活は長続きせず、ついに両親の住む寺に帰り、一念発起、僧侶になり、二十八歳の時に県立学校事務職員に採用され、時を同じくして結婚、六年前事務長にて退職まで学校に勤務しながらの生活でした。

今は二人の子供も独立し、妻と二人で僧侶として寺族として寺を護っています。

檀務のほか冬には樹木の手入れなど、夏には草刈りなどたくさんの『作務』があります。

『日常生活の一つひとつを大切にし、身と心を調える』とは言うものの、最近では足腰が痛み湿布葉に頼っています。

また、拙寺には珍しい閻魔洞（正徳二年・一七一二二年作）や石橋『羅漢橋』（江戸時代末期作）があり、四季折々の花も楽しめるように心がけています。



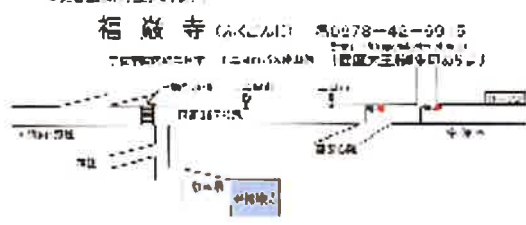
(朝日新聞 平成31年4月29日 掲載)

とりわけ四月末のツツジは見応えがあります。遠方から参拝にお見えになる方もおられ、お話しするのも楽しいです。

ご希望の方には御朱印も用意し、信仰はもちろん観光としても寺に人が集まり、安らかでおだやかな時を過ごしていただきたいと願っています。

今後も檀信徒のみならず、訪れて頂いた方々とのご縁を大切に、僧侶としての役割を果たしていこうと思っています。

近くにお出の際にはぜひお立ち寄りください。



## 大学時代の思い出

昭和53年卒 木村 和宏 (74-133)

私は昭和49年に高経大に入学し、昭和53年に卒業するまで4年間高崎の街で学生生活を送りました。

卒業して40年以上経ちますが学生時代の出来事が今もはっきりと記憶に残っていますし、学生時代の様々な経験が私の土台になっていると思っています。

高崎まで行くのに当時新幹線がまだ岡山までしか開通していなかった関係もあり、大分からは寝台特急で新大阪まで行き、翌朝新幹線に乗り東京駅へ、更に上野駅から高崎まで電車を乗り継ぐ行程で合計18時間程度かかっていました。

もっとも鉄道好きの私にとっては至福の時間でもありました。

下宿は、上小埜にある賄い付き（朝食・夕食付き）の下宿で学生数は10名でした。

2年生までは3畳一間の部屋で3年生からは4畳半の部屋に移りました。

3畳の部屋は本当に狭く、小さな机、こたつ、本棚を置くのがやっとで冷蔵庫、テレビのないせいかつでした。ただ、下宿の大家さんの庭先にあった関係で風呂は大家さん宅で入浴させてもらい、食べ物の差し入れもあつたりと恵まれた環境でもありました。

そんな家庭的な関係もあり2年前北海道に住む先輩の呼びかけで当時の下宿生が集まり、大家さん宅を訪問し旧交を温めることができました。高経大のいいところは、大学周辺に下宿が点在しており、夜な夜な各下宿の友人、先輩たちとの交流が出来た点にあると思います。都会地の大学では絶対に体験できない濃密な時間を過ごすことが出来ました。



(平成29年 下宿先を訪問)

学業では、第二外国語はドイツ語を選択また商業科教員免許の取得を目指したため比較的にじめに授業には出ていたと思います。

大分商業高校で二週間の教育実習を経験できたこともいい思い出となっております。

クラブ活動は下宿先の先輩の影響もあり会計学研究部と考古学研究部に入りました。

もっとも考古研は2年時に退部し、最後まで在籍したのは会計研のみでした。

会計研での一番の思い出は、2年生時に起きたクラブ分裂です。当時部の方針は、会計学の理論的な部分を学生時代に体系的に学び、簿記・財務分析など将来公認会計士、税理士受験や就職にも役立つ実学も併せて取組むというものでした。

一部の公認会計士、税理士を目指す人達が、受験に繋がる実践的な学習を集中して行うべきと主張し、合宿先の諏訪湖畔の旅館で夜を徹して大激論（学生のあるべき姿とはとか今本当に取組むべきものはなにかなど）を繰り返して、結果実学重視のグループは新たに経理研究部を設立し、分裂することになりました。



(会計研の仲間と合宿先にて)

私は会計研に残り、2年次より文科系サークルの集合体である「文科系サークル協議会」の委員となり、協議会の運営や大学祭実行委員会（市との予算折衝、予算配分、会計収支など）に携わった結果、会計学の研究発表などに取組むことなく卒業してしまいました。

結果クラブ活動で学んだことと言えば多少の簿記の知識と人間関係の大切さ（合宿、数多くの飲み会の思い出を含めて）ということになりました。



改めて振り返ると学生時代には本当に自分の人生に取って掛け替えのないものを得、また経験することが出来ました。私は高経大に進学して本当に良かったと思っています。

沢山のひととの出会い（生涯の友も得ることが出来ました）、アルバイト(学習塾講師、家庭教師、デパート中元・お歳暮受付、蚕の集荷作業、測量会社助手など)を通しての社会経験、友人たちと行った旅行(北海道・長野・北陸・京都・四国・九州など…特に尾瀬ヶ原の人工物が一切ない森閑とした景色は忘れることが出来ません)、



(友人と四国旅行)

音楽（フォークソングとの出会い…井上陽水、かぐや姫<風>、小椋桂、中島みゆきが特に好きでした）、読書（乱読でした）数多くの飲み会、大学祭（名物榛名湖駅伝に出場、模擬店や仮装行列に参加）、喫茶店巡り、映画鑑賞、デート、学生運動への参加（東京でベトナム戦争反対の国際反戦デーのデモ行進や原爆被爆者援護法に向けての運動に参加など）

4年間の限られた時間でしたが、自分の意思で赴くまま過ごせたのも事実です。

極めて密度が濃かった（ある意味充実していた）ので未だに忘れることが出来ないのかもしれませんが。

たのしいことばかりではなく、色々と悩んだり、考えたりすることもありましたがそれらを含めて全てが私の青春時代そのものとなっています。

地元出身の友人の自宅（富岡市・妙義町）も度々訪れ、家庭料理をご馳走になったり、そのまま宿泊させていただいたりもしました。

高崎の街に住む人達も私たち経大生に大変親しみをもって常に温かい眼差しで接して頂き、高崎はまさしく「第二の故郷」となりました。

大学を卒業後、地元大分の銀行に就職し、9年前より銀行関連のリース会社に勤務しています。

リース会社に転籍後年に1～2度東京に出張するようになったことで、学生時代の友人と再び東京で会うことが出来るようになり、休暇を利用し群馬、長野、青森の友人宅も訪問し、旧交を温めることができました。

今後も出来る限り懐かしい仲間と会える機会を作って行きたいと考えています。

また高崎より遠く離れた大分の地で年に一度同窓会が定例開催されることで、共通の話題（高崎の街の話、大学の話、下宿やクラブ活動の話など）を親しく話すことが出来る仲間が身近にいることがこれからの人生の彩としてかかせないものになっています。

同窓会大分支部結成20周年を向かえ、これからも地元の同窓生との交流を大切にして行きたいと改めて思っています。



## 大学時代を振り返って

昭和55年卒

梶原 智敏 (76-124)

今年(2019年)3月61歳(還暦+1)となりました。

5月にも元号も「令和」となり昭和の時代が遠くに思えてきました。

「遥か遠くになりけり 人も学びも風景も  
我が母校 高崎経済大学」

「おっと、学びはもともと脳内にインプットされていませんでした！」

大学時代の昭和51年から4年間は、わが青春時代の集大成の時期で、もうかれこれ40年以上も前となります。

今、大学時代の一番の後悔は何かと問われれば、勉強を全くしなかったことです。

経済学、経営学、マーケティング、統計学等々、しっかり学んでいれば今の仕事に役立つであろうと思うと残念でなりません。

お陰で、学の無いところをさらけ出しています。

では、学生時代には何をやっていたのかと問われれば、クラブ活動の柔道と即答です。

中学時代に始めた柔道を高校では受験を理由にやりませんでした。

当時挑戦しなかった自分の弱さ、後悔を払拭するため大学で再開しました。



もやもやを振り払うように、一心不乱に柔道と向き合いました。3年生では幹事や会計の協力により主将を努めることが出来ました。

思えば、当時の練習の苦しさに耐え、やりきったという経験が今を支えている気がします。

トラブルや判らないことがあれば、柔道の打込みや乱取りのように、繰り返し繰り返し身に着くまで続けある程度の形をつくる。

そこから更に、洗練されたものを求めて、付け加え、そしてそぎ取る。

ドラッカーの言葉に「継続力が平凡を非凡に変える」という身に沁みるフレーズがあります。

この歳になり、継続する残りの時間も少なくなってきましたが、出来る限り続けることにこだわってこれからも過ごそうと思っています。

勤めも終わりが近づいてきています。

退任後は夫婦で、日本・世界、色んなところに行ってみたい。ゴルフも満喫したい。と考えています。

### <現在進行形>

- ・日田信用金庫
- ・柔道(選手～少年柔道教室～柔道連盟)
- ・ゴルフ(25歳～)
- ・朝のゴルフストレッチ(10分程度、5年以上)
- ・朝の任天堂ソフト毛筆練習(5年以上)
- ・夫婦生活34年

稚拙な文章ではありますが、学生時代4年間の意義を考えてみました。

無理やりの結論だったかな？

でも、少し整理が出来ました。

### 【方言コラム その1】

Aさん 「ねえ、そこのおもちや なおしといて」

Bさん 「あのさあ このおもちや、どこさ壊れてるの？」

Aさん 「えっ 壊れてないよ」

Bさん 「・・・？」

Aさん 「大分では なおすすって言ったら しまう・片づけるという意味なんだ」

Bさん 「あ-ね。群馬では かたす っていうのさ」



## 大学時代合気道部の思い出

昭和55年卒

後藤 誠一 (76-182)

早いもので、高崎経済大学を卒業して40年近くになる。

初めて高崎に降り立った時に駅前の食堂で食べたかつ丼の味が忘れられない。

右も左もわからず不安いっぱい的大学生活はここからスタートした。

人生において4年間とは長い、その間勉強した記憶は全くない。

覚えたものは、たばこ、酒、パチンコ、麻雀、そして合気道である。といっても、運動神経ゼロ、2年生の時に足をけがして3ヶ月ほど稽古を休み、先輩からやめると思っていたといわれたほどである。

こんな私が4年間も続けてこられたのは先輩や仲間のおかげである。

合気道をしていなかったらムダな4年間を過ごしたと、後悔しているに違いない。

こんな私の合気道との出会いは同じ下宿にいた先輩の「ちょっと稽古を見に来ない？」という誘いであった。

同じ下宿ということもあり断るわけにもいかず体操服に着替えて見学に行くと、「少し受け身をしてみて」と言われ、言われるままに転がってみた。

すると、「なかなかセンスがいい」などと誉められ、そんなはずはないとわかっていながら、次の言葉が「入部を認める」というものだった。



それまでスポーツ経験はゼロ、体育会と聞くだけで、上下関係の厳しさ、先輩のしごきをイメージし、自分が武道をするなど1mmも考えられず、いつ辞めると言おうかとばかり考えていた。

しかし、優柔不断な性格が災いし、断ることもできず、なんとなく入部ということになり合気道を始めることになった。

入部して最初の試練は、新入生歓迎コンパである。店の名前は覚えていないが、高崎市内の料理店で生まれて初めて爛の効いた日本酒を飲み、その後はほとんどの部員が経験したようにバケツのお世話になった。

そのとき、先輩からなんともったいないことをするんだとお叱りを受けたが、何ともしがたかった。

しかし、もっと辛かったのは夏の菅平の合宿である。

稽古もきつかったが、ちょうど虫歯になり、頬が腫れ、食事も取りにくく痛い思いをした。先輩が麓の歯医者まで連れて行ってくださったが、日曜日でどこも休診、痛み止めを買ってそのまま合宿所に戻った。

きっかけは先輩の「ちょっと稽古を見に来ない？」だったが、不安を抱えながらも4年間も続けられたのかと考えると、改めてよき先輩、よき仲間恵まれたからだと感謝している。

田舎から出てきた私のよき話相手となってくれた山形出身のM君、2つ年上で、正月には寅さんを観にいった北海道出身のY君、大きなバイクに乗せてくれたS君、いつも明るくにこにこしていたI君、そして多くの先輩に大変お世話になった。

一つ先輩のYSさんにはいつもバイクの後ろに乗せてもらいバイクの面白さを教えてもらった。

また同じ大分県出身の先輩YMさんからも、いつも何かと気にかけていただいた。

二つ先輩のIM先輩が主将として師範の稽古を受けるのを見て、「なんてすごい人だ。」と感動した。多くの先輩、仲間のおかげで合気道が続けられたことは、社会人になった自分の自信になっている。

目的もないままなんとなく大学に入り、自分を見失いかけたときに合気道と出会い、多くの先輩、仲間と出会った。

この出会いがなかったら、今頃どこで何をしているやらと思う。

もう少し勉強をしておけばよかったという後悔がないわけではないが、今は人生における出会いが勉強に代わる財産であったと思っている。

## Unforgettable Memories

昭和57年卒 吉光 俊之 (77-542)

九州のほぼ真ん中、玖珠の地から 遥か高崎の地へ、大学生活を高崎経済大学でおくることとなった。まず、高崎の地に降り立ち、大学の学生課へ向かう途中 浅間おろしの洗札を受けた記憶がある。下宿を紹介され上並榎Nさん宅の4畳半の下宿に決める。すると不思議なことにNさんの長男はなんと大分大学在学中ということ、不思議な縁を感じた。

大家さんの「だんべえ」言葉を話すのを聞き東北？とも思ってしまった。

下宿は 台所・風呂・トイレは共用であった。

一番 驚いた(?)のはガス風呂であった。実家は温泉で24時間かけ流し状態だったので初体験。先輩から風呂の沸かし方を習い20分だったか沸いているというので浴槽に向かう、手をつけて温度を確認すると非常に熱くやけどしそう。タイマーを間違ったのかと思い水を投入、上部の湯温が丁度良くなって入ると、下は水、当たり前のことだが沸かし風呂はかき回してから風呂に入るんだと先輩から笑われてしまった。

大学生活は勉強は、程ほどで、アルバイトをし生活費を稼ぎ、友人宅を拠点に全国を旅行して廻ったことがよき思い出となりました。

大学卒業後、大分へ戻り トキハインダストリーに入社、4名の大学の先輩が在籍しており早速仲間入り。

その後年に1~2度社内同窓会を開催していった。

入社後、食品売場、小型店店長を経験し家電製品部門が一番長かった。そんな中、ソニーの平井一夫社長(当時)とお話する機会もあり有意義であった。



(ソニー 平井社長と)

また、29歳のときから20年間、労働組合の執行部に所属(もちろん非専であったが)。その中で、P/LやB/Sを学び商売を実体験するマネジメントゲーム(モノポリーゲーム)のスーパーマーケットバージョンを作り上げた(元になるのは、高島屋労組が行っていた)。

このゲームを作成するにあたり、当時、岩田屋労組のS氏からトキハインダストリー労組で作れるの??といった言葉があり、メラメラと闘志がわき、なにくそと作り上げていった。

S氏の言葉が無かったら完成していなかったかも。そのお陰で マネジメントゲームセミナーの講師として 福岡・鹿児島をはじめ岡山・札幌と各地を廻ることができた。



(講師を務める)

札幌では、札幌東急ストア労組でセミナーを開催し、自分たちの経験を札幌東急ストア労組の執行部に伝授。彼らもセミナーを独自で開催できるようにアドバイスをを行った。

そうした縁もあり労組を退くにあたり、東急ストア労組・札幌東急ストア労組から組合執行部の退任の慰労会をしてくれると札幌へ招待を受けた。



札幌へ向かう当日、機中の人となった私に待ち受けていたのは、札幌東急ストア

が アークス に買収されるという Big News であった。

当然、札幌東急ストア労組の委員長は空港に姿は無く、東急ストア労組の委員長だけが私を出迎えた。その日は 企業買収の件等の意見を交わしながら2人でススキノの夜を迎えた。



翌朝、ホテルに札幌東急ストア労組の委員長の姿があった。折角の送別会だからと緊急事態にも関わらず恩義があると その日 一日付き合ってくれた。

これまでの多くの出会いに感謝!

これからの多くの出会いを求めて!



(トキハインダストリーのメンバー+本田氏・関川氏との懇親会)

大分三扇会については 「編集後記」に記述。



## 大学時代の思い出

昭和57年卒 後藤 康男 (78-207)

大分三扇会、結成20周年誠にありがとうございます。歴代の会長・事務局長のおかげをもち無事20周年を迎えられ嬉しく思います。

さて、高崎経済大学時代の思い出ということでの回想をしてみますと、私の60年ほどの人生で最も楽しかった4年間であったことは間違いありません。

大分県から東京よりまだ遠い群馬県に縁あって来て多くの先輩、同級生、後輩に出会えたこと、そしてそれらの人々が東京の有名私大ではないのにそれこそ全国津々浦々から集まっていたことが新鮮そのものであり、今もなお全国各地で再会でき旨い酒を呑みお互いの健康をたたえ合う、素晴らしい関係が構築できたことです。

私は体育会の準硬式野球部に入部しました。北関東リーグ戦で試合は主として栃木県の西川田というところでリーグ戦を戦っていました。勝ったり負けたりの中位クラスでしたが今でもいい思い出です。



( スラッガー ? )

また別途関東大会が東京で開催され、城西大や東京農大といった強豪校に自分のタイムリーヒットもあり勝ち進んだこと(3回戦の立教大にはコールド負けでした。苦笑)や、都留文科大との定期交流戦で3年時最優秀選手賞に輝いたことは、脳裏に新しいところです。

ただし試合の活躍より先輩、後輩との金さえあれば中央銀座街や柳川町での飲み会の思い出が何倍も(笑)楽しかったかもしれません。

今だにご法度の一気飲みをはやらせたのも私たちでした。



(右が私です)

フランス座のステージに後輩を無理やり上がらせたりしていたのも懐かしい青春の1ページでしたね。

勉強した時間、記憶は2%くらいで部活動とアルバイトに明け暮れた高崎の街そして母校を誇りに思う還暦の今日この頃。

大分支部の会員皆さまのご健勝、ご多幸を切に祈念申し上げます、拙い私からのメッセージにかえさせていただきます。

それでは皆さま、またお会いしましょう!



## 大学時代の思い出

昭和60年卒 二宮 修治 (81-332)

はじめまして、昭和60年卒業の二宮修治です。

今回、大分支部結成20周年にあたり何か寄稿せよというお言葉をいただきましたが、私は、仕事柄県内(時には県外)を数年単位で転々としておりまして、昨年、初めて同窓会に参加させていただいたという、いわば不良OBであります。

昨年、ある会合で志村先輩とご一緒させていただいた際、同窓会のお話となり、改めて事務局の皆さんをご紹介いただき出席できたような訳で、そんな新参者の私が寄稿してよいものかと迷いましたが、折角のお話ですからこれまでご無沙汰だった分も含め、大学の頃の思い出や近況などについてお知らせしたいと思います。

昭和56年4月に大分を離れ、飛行機、電車を乗り継ぎ県出身者として唯一人大学の門を潜ったとき、最初の試練は、学生寮(三扇寮)の入寮面接でした。

未成年だった私は、先輩寮生の大人びた風貌にまず圧倒され、なんとか面接をクリアしたものの、雑然とした寮の部屋(当時はまだ軍隊の払い下げの建物という噂でした)に愕然としたのを覚えています。

その後は、お決まりの新入生歓迎会やコンパ等で、その1学期間は每晚飲んで(未成年!時効です)いたような気がします。

さて肝心の勉強ですが、旧態依然とした厳しい寮生活だったものですから、何か運動してストレス発散しよう一念発起、入学して直ぐに少林寺拳法部(カンフー映画が全盛期だったので…)に入学し、経済学生の本分を忘れて打込み、気付いたら単位が足らずに留年瀬戸際(汗)、当然、経済学とは?の段階で思考停止のまま卒業してしまいました。



卒業後は、大学で学んだ?少林寺拳法を糧に大分県警を拝命し、若い頃は、機動隊や逮捕術(格闘技みたいなものです)の特別訓練員、千葉県警の成田空港警備隊勤務等およそ街角のさわやかなお巡りさんとは、異質の世界で勤務させられ、その後、薬物中毒者や非行少年を相手に一時神奈川県警の警察官となったり、帰県してからも県内を転々とした挙句、気がつけば、父親の出身地である由布市を管轄する大分南警察署長を命ぜられ、日々悪戦苦闘しております。



(大分合同新聞より)

大学施設が充実し、勉強に専念している今の優秀な後輩達に叱られそうな、当時の私のだらしない学生時代ですが、気ままな自由人として生きた4年間は、その後の人生において、大きな心の糧となっています。

卒業生として恥ずかしくないように、今後とも、頑張ってもらいますので、お近くにお寄りの際はお気軽に(笑) お立ち寄りください。



たかまる・このみん  
(高経大 マスコット・キャラクター)

## 50歳過ぎから大分県とご縁！大分三扇会に感謝！

昭和60年卒 古谷 俊之 (81-386)

20周年誠におめでとうございます。

私のような新参者が伝統ある大分支部の20周年の冊子の原稿を書かせていただくことに先ずは以って会員の皆様にお詫びを申し上げる次第です。

ご縁あって平成27年1月より大分県に移り住み、本学の事務局に職業変更の届けをしてから大分三扇会事務局の吉光様にはずっとご面倒を見ていただいております。

30年間清水建設株式会社という会社で国内・海外の仕事をしながら53歳を迎え、子どもも独立したこともあり人生を考えた瞬間がありました。このまま一企業に身をおいて一生を終えるべきか、学生時代に教育に関心があり大学時代取得した教員免許（社会・商業）を活かし教育に関する仕事の挑戦をするか考え始めた時に、日経新聞に「大分県教育委員会が民間企業管理職経験者を公立学校の校長として募集」の記事が目にとまりました。

家内に最初反対されるのでは？と恐る恐る切り出したところ「あなたのやりたいことだったからね」と家内が本学の後輩であったことが幸いして無事理解されチャレンジすることとなりました。

運よく採用され、第二の人生を大分県でスタートさせることが出来ました。

大分県には地縁血縁は全くなかったものの、大学時代のユースホステルクラブの二人の先輩は、大分市の出身でお世話になり、清水建設時代も同じ部門で二人の大分市出身の方に出会っていました。

特に一番長く仕事をし、月に一度の海外出張をした海外部門の上司からは、往復の機中や宿泊先でよく大分県の話を知っていましたので、田舎のない私にとっては、イメージが膨らむばかりの新鮮な時間でした。

その時はまさか私が大分県で仕事をするとは予期していませんでしたので、旅行に行く時の参考にしようと懸命に聞いていた気がします。



(宇目緑豊中学 同校HPより)

県教委に3ヶ月いて、佐伯市の宇目緑豊中学校に3年勤務し、その間学校活性化の為に文部科学省の研究指定校になる一方、生徒会の独自の活動を支援し校歌の作詞作曲者であるイルカを招いたり、九大と中学校大学連携し、学校の敷地の一部を渡り蝶で有名なアサギマダラの通り道にしたり、外部の力を活用しながら新しい風を吹かせました。

昨年4月より、同じ佐伯市内の彦陽（げんよう）中学校で地域とコラボレーションした防災教育や、合唱が盛んな学校を全国に売り出そうとNHK合唱コンクール大分大会に出場するなど、「学習プラス豊かな人間性を育む」ことを教職員と共に考えながら少しでも大分県の教育に貢献するよう努力をしています。

大分県の生徒は、大変素直な生徒が多く、新しい取組にも積極的に挑戦してくれ学校を運営する立場として張り合いを持って仕事が出来て、大分県の教育に携わられて心から良かったと感じています。

教育の世界に入り、清水建設での経験も大いに役立っていますが、ベースはわが母校高崎経済大学時代の4年間で培われた人間関係が大きい気がします。

小さい大学ながら全国から集まり上並履周辺に学生コミュニティ社会を形成し切磋琢磨した経験は何事にも変えられません。（勿論清水建設時代にもその経験は十分過ぎるくらい有効でした。ちなみに清水建設入社の本学卒業生は17名となり、国公立大文系学部出身数では上位の数で、大分県出身は1名おります。）

昨年9月に防災の学会で仙台にお邪魔した時に30数年ぶりに同期に会いました。その空白の期間を全く感じることなく酒を酌み交わしたことは言うまでもありません。

学校行事が重なることが多く、大分三扇会の総会には一度しか参加できていませんが、その一度の総会においても先輩・後輩が温かく迎えていただき心より感謝しております。

大分三扇会の今後益々の盛会と本学の更なる発展を衷心より願っております。



# 高崎経済大学の思い出

昭和61年卒 椎原 猛 (82-275)

高崎は、多感な時期に多くの方々と出会って教わり支えられ、以後の自分の形を作ることとなった「もう一つの故郷」です。

高崎での初めての一人暮らしのスタートは心細かったですが、すぐにサークルや下宿で先輩や友人達の人の繋がりができて、高崎が「異郷」から「故郷」と思えるようになってきました。

夏は内陸部特有の体温に近い暑さ、冬は冷たい「からっ風」が強く吹く激しい気候でしたが、当時エアコンが無く隙間風が通る下宿先でも、友達と過ごす日々は不思議と苦になりませんでした。

友達と夏は上半身裸で酒を飲み、冬はこたつで鍋をつつき、和式レストラン「天坊茶屋」でアルバイトをして小遣いとサークルの活動費を稼ぎ、試験前には先輩や友達からまわしてもらった過去問ノートで単位をとり、今思えば「毎日が日曜日」みたいな生活だと思います。

石井 史教授のゼミに属し、教授によくしていただいたのを憶えています。

サークルは「山野愛好会」という文化系のワンダーフォーゲル部のような40名近い大所帯の登山サークルに属し、上毛の山々や北アルプス等2000~3000m級の山を1~2か月に1回のペースで登っていました。

活動が意外にハードで、テントや食料等の30Kgを超える装備を背負い、片足2Kgある革製登山靴で8時間近く登山道を歩き、3~7日間かけて複数の峰を征服します。

汗にまみれて息をきらし、里におりるまで風呂にも入れず異臭を放ち、滑落や落石を警戒、足しか移動手段がない縦走は、苦行であると同時に危険の伴う活動でした。



しかし高度3000mの山々の世界は、「アルプスの少女ハイジ」のような夏でも残る雪と切り

り立った峰の織り成す魅力的な異世界であり、雲海が流れて夜には星に手が届きそうであり、自分を魅了し続けました。

稚拙な技術、煙草と酒で落ちた体力しかない自分ですが、文句も言わず一緒に登ってくれた先輩や仲間に対しては感謝しかありません。

今大学時代を振り返ってみますと懐かしさより、よくしていただいた方々に「今の自分があるのも、あなたとの出会いと過ごした時間のおかげ」と感謝したいと思う気持ちが強いです。

子が高校生で進学を希望しており、自分の大学生活のように、よい出会いと時間に恵まれればよいと願っております。

皆様におかれては、同じ大学と地域で学び暮らし、同窓会でお会いできたのもなにかの「ご縁」、今後におきましても共により時を過ごすことができるよう願っております。

~~~~~



(焼きまんじゅう)



(下仁田ネギ)



# 大分三扇会記念誌発刊に寄せて

平成元年卒

祝出 恵美 (85-057)

高崎経済大学同窓会大分三扇会創立20周年記念誌の発刊誠におめでとうございます。

今回の寄稿にあたり振り返ってみますと、私が初めて高崎の地を踏んだのは昭和60年3月、特急で高崎駅に着いた時でした。

東京都以北に行ったこともない私が当地を訪れたのは、入学を決めた高崎経済大学での住まいを探すためでした。

今もそうかもしれませんが、当時は遠隔地受験が可能であり福岡市で入試を受けた私は、高崎がどんなところか全く知らないまま今は我が母校となった高経に入学を決めました。

同級生皆似たようなもので語学が同じ子は宮崎県小林市、下宿先が一緒だった子は北海道旭川市出身でした。

サークルにも北海道や鹿児島先輩方もいて、私大でもないのに全国各地から数多の学生が集まっていることに驚いたものでした。

大学での4年間はそのまま長い長い旅の連続だったように感じます。

高崎を遠く離れた現在でも草津や万座と聞けば温泉よりもサークルの合宿で度々訪れたスキー場の方を思い出しますし、碓氷峠をニュースで見ればハングオンのバイクが女性4人同乗の私の車をカーブで追い越しまピースサインをして、全員で歓声を上げた光景がありありと浮かびます。

ゼミで松島や富山に行ったこと、何故だか分からないけど大洗まで海を見に行ったこと、姿を変える前の華厳の滝を見れたこと、他にも数えあげれば枚挙に暇はありません。

大学生の身でありながらあれ程多くの地を周れたのは、全国各地から学生が集いそして散っていく高経の気風がそうさせてくれたのだと改めて感慨深く思います。

東京での社会人生活を経た後、故郷の大分に帰ってから、思いがけず大分三扇会から同窓会のご案内を頂きました。

当初は中津で就職したばかりでまだ仕事に不慣れなことも多く参加を見合わせておりましたが、高崎を離れて数十年経つと懐かしさが先にたち、案内が届き始めてから数年後に初めて参加させて頂きました。

やはり同窓とは特別なもので一度もお目にかかったことはないのに皆様とても親切にしてくださいそれからは欠かさずことなく参加させていただいております。

平成元年に卒業した私にとって令和元年を迎えた今年、あの特別な4年間を過ごした高経を卒業して30年経つのだと改めて思う年になりました。

自分の前には先輩がいて自分の後には後輩がいて、連綿と続く系譜の中に自分がいるのだと思うと、この流れを絶つてはいけなと考えるようになりました。

微力ですが引き続き同窓会に参加させていただきます。

末筆ではございますが、大分三扇会の今後益々の発展を心より祈念しております。



(群馬音楽センター)



(高崎城址)

## 大学時代の思い出

平成3年卒 中濱 未喜 (87-312)

自己紹介を兼ねて、当時の学生生活を振り返ってお話します。

私は、昭和62年に入学しました。浪人生活を経て、大学に入った負い目もあり、両親には、「アルバイトをして生活費を稼ぐから、家賃3万円の仕送りだけでいいよ」と言い張り、大学生活が始まりました。

初めての一人暮らし、自由に気兼ねなく過ごす時間に期待し、自分なりに、何処に住むか、どんな生活をするか、胸を躍らせていたのを憶えています。

とにかく生活費を得ることが第一だったので、部活やサークルに入ることは考えていませんでしたが、大学卒業後は、警察官になろうと考えていたので、当時、貝塚町にあった櫻井柔道場を電話帳で調べ、柔道を始めました。

そうしたところ、柔道部の目にとまり、気がつくとも柔道部に入っていました。

大学から柔道を始めた私は、3年生まで全く勝てませんでしたが、4年目にして公式戦で初勝利をあげることができ、この勝利が部活での一番の思い出となっています。



大学時代、柔道の戦績は散々でしたが、卒業後、警察官となり、警察では自分レベルの柔道が通じることが分かり安心しました。

大学で学んだことの中で、柔道部で練習したこと、部活動で学んだことが、今の仕事に一番役に立っているような気がします。

肝心の勉強ですが、私は石井ゼミ、当時「学長ゼミ」と呼ばれるゼミに入っていました。このゼミは、一部の運動部だけに採用枠があり、私は柔道部枠で入りました。

ゼミは学長主催のゼミということで、就職の際には、学長推薦が受けられたので、人気の高いゼミでした。

入ゼミに際しては、先輩の集団面接があり、一芸を披露するという体育会系らしい試練がありました。

ちなみに私は生卵10個を3秒で飲むという芸を披露し合格しました。

最後になりますが、歳をとったせいでしょうか、久し振りに思い出してみると、約30年前の大学生活が、昨今のように、不思議と楽しかった思い出ばかりが思い出されました。



### 【方言コラム その2】

群馬の方言でまず 思い浮かべるのは 「～だんべえ」ではないでしょうか。

そーうだんべえ！ ⇒ そうだろ！

また、語尾によく ” さ ” がつきます。

「行ったんさ」 「もらったんさ」 「話たんさ」

|    |        |       |                  |            |      |
|----|--------|-------|------------------|------------|------|
| 他に | なっから ⇒ | すごく   | 俺、お前のこと          | なっから       | 好きさあ |
|    | まっと ⇒  | もっと   | まっと              | 早く歩こう      |      |
|    | かんます ⇒ | かき混ぜる | お風呂のお湯           | かんましといて    |      |
|    | たかす ⇒  | 捨てる   | そのゴミ             | たかしといて     |      |
|    | てんで ⇒  | 全く    | 君を嫌いになるなんて、      | この先てんでないよ。 |      |
|    | ～がね ⇒  | 強い念押し | 宿題やるって言ったがね      |            |      |
|    | いきあう ⇒ | 偶然あう  | この前学校の先生にいきあつたよ  |            |      |
|    | なげる ⇒  | 捨てる   | それいらないから、なげちゃって  |            |      |
|    | なっから ⇒ | ずいぶん  | なっから遅いがねー。どうしたん？ |            |      |

少しは思い出しましたか ？

# 高崎経済大学同窓会「大分三扇会」の歩み

(敬称略)

| 日 時         | 項 目                                                                                                  | 出席(者)会員数 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 平成8年8月21日   | 「懇親会」(海宴亭<大分市府内町>) 発起人 平山文彦 豊田博志                                                                     | 13名      |
| 平成9年8月9日    | 「懇親会」(ながさき屋月洞門<大分市府内町>)                                                                              | 15名      |
| 平成9年10月18日  | 「懇親会」(ほり川母屋<臼杵市>)                                                                                    | 15名      |
| 平成9年10月18日  | ゴルフコンペ(別府ニット-G. C)                                                                                   | 5名       |
| 平成10年3月9日   | <b>大分三扇会の発会</b> (大学への発会報告と協力要請)                                                                      |          |
| 平成10年11月14日 | <b>第1回総会</b> 第一ホテルシリウスの間 寺嶋会長就任                                                                      | 16名      |
| 平成11年6月5日   | 志村県議二期目当選祝賀会 第一ホテルアトラスの間                                                                             | 19名      |
| 平成11年11月28日 | 第2回総会 豊後寿司                                                                                           | 19名      |
| 平成12年1月21日  | 高経同窓会(本部)ホームページ完成( <a href="http://www.takakeidai-doso-gr.jp">http://www.takakeidai-doso-gr.jp</a> ) |          |
| 平成12年11月26日 | 第3回総会 小田急センチュリーホテル                                                                                   | 20名      |
| 平成13年11月10日 | 高経同窓会(本部)主催 全国支部長会・総会(高崎・高崎サンパレス)                                                                    | 寺嶋康純     |
| 平成13年11月17日 | 第4回総会 日本料理ほり川 <b>「大分支部会則」制定</b>                                                                      | 18名      |
| 平成14年10月20日 | 第5回総会 海宴亭(府内町) 来賓: 井上会長                                                                              | 20名      |
| 平成15年1月29日  | <b>「高崎経済大学同窓会旗」 本部同窓会より寄贈</b>                                                                        |          |
| 平成15年2月15日  | 「志村学氏を励ます会」(山田屋・臼杵市)                                                                                 |          |
| 平成15年11月15日 | 第6回総会 ふく亭本店 来賓: 井上会長 石井学長                                                                            | 18名      |
| 平成16年11月6日  | 第7回総会 ふく亭本店 来賓: 井上会長 石井学長                                                                            | 16名      |
| 平成17年12月3日  | 第8回総会 城島後楽園ホテル                                                                                       | 14名      |
| 平成17年12月3日  | ゴルフコンペ(城島G. C)                                                                                       | 5名       |
| 平成18年12月2日  | 第9回総会 ふく亭本店 甲斐会長就任 来賓: 井上会長 小暮学長                                                                     | 14名      |
| 平成19年6月24日  | 高経同窓会(本部)主催 全国支部長会・総会(高崎・高崎ビューホテル)                                                                   | 甲斐太治     |
| 平成19年6月25日  | 高崎経済大学開学50周年式典(群馬音楽センター・高崎市)                                                                         | 甲斐太治     |
| 平成19年12月3日  | 第10回総会 ふく亭本店 来賓: 市川会長 井上顧問 大河原地域政策学部長                                                                | 13名      |
| 平成20年11月29日 | 第11回総会 ほり川 来賓: 市川会長 吉田学長                                                                             | 11名      |
| 平成21年11月28日 | 第12回総会 ふく亭本店 大野会長就任 来賓: 市川会長 吉田学長                                                                    | 13名      |
| 平成22年6月26日  | 高経同窓会(本部)主催 全国支部長会・総会(高崎・高崎ビューホテル)                                                                   | 大野謙治     |
| 平成22年11月6日  | 第13回総会 ふく亭本店 来賓: 鹿島副会長 吉田学長                                                                          | 15名      |
| 平成23年11月19日 | 第14回総会 ふく亭本店 来賓: 富沢副会長 石川学長                                                                          | 16名      |

| 日 時         | 項 目                                | 出席(者)会員数 |
|-------------|------------------------------------|----------|
| 平成23年11月19日 | たかさき架け橋基金へ 10万 寄贈                  |          |
| 平成24年11月17日 | 第3回 高崎経済大学就業力育成ネットワーク in 高崎        | 吉光俊之     |
| 平成24年12月8日  | 第15回総会 ふく亭本店 来賓：市川会長 田中副学長         | 19名      |
| 平成25年11月16日 | 第4回 高崎経済大学就業力育成ネットワーク in 高崎        | 椎原 猛     |
| 平成25年12月7日  | 第16回総会 ふく亭本店 来賓：市川会長 石川学長          | 18名      |
| 平成25年12月7日  | 石川学長・市川同窓会長と大分合同新聞社 訪問             | 大野・木村    |
| 平成26年11月15日 | 第5回 高崎経済大学就業力育成ネットワーク in 高崎        | 木村和宏     |
| 平成26年12月6日  | 第17回総会 ふく亭本店 来賓：江畑副会長 高木学長 関根経済学部長 | 18名      |
| 平成27年11月7日  | 第18回総会 ふく亭本店 来賓：江畑副会長 阿部経済学部長      | 18名      |
| 平成27年12月5日  | 第6回 高崎経済大学就業力育成ネットワーク in 高崎        | 安部百紀     |
| 平成28年1月28日  | 鹿児島支部 設立総会                         | 大野謙治     |
| 平成28年6月18日  | 高経同窓会（本部）主催 全国支部長会・総会（高崎・高崎ビューホテル） | 大野謙治     |
| 平成28年10月1日  | 四国地区合同支部総会                         | 大野謙治     |
| 平成28年11月12日 | 鹿児島支部 第2回総会                        | 木村和宏     |
| 平成28年11月26日 | 第7回 高崎経済大学就業力育成ネットワーク in 高崎        | 祝出恵美     |
| 平成28年12月3日  | 第19回総会 ふく亭本店 来賓：江畑副会長 村山学長         | 18名      |
| 平成29年6月25日  | 高崎経済大学創立60周年記念式典および祝賀会             | 大野謙治     |
| 平成29年12月2日  | 村山学長と 大分舞鶴高校 及び 大分合同新聞社 訪問         | 大野・木村    |
| 平成29年12月2日  | 第20回総会 良の家 豊田会長就任 来賓：石塚副会長 村山学長    | 17名      |
| 平成30年11月10日 | 鹿児島支部 第3回総会                        | 吉光俊之     |
| 平成30年12月7日  | 村山学長と 大分舞鶴高校 訪問                    | 吉光俊之     |
| 平成30年12月8日  | 第21回総会 ふく亭本店 来賓：北島副会長 村山学長         | 24名      |

### 大分三扇会歴代役員

|       | 1998  | 1999 | 2000  | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006  | 2007 | 2008 | 2009 | 2010  | 2011 | 2012  | 2013 | 2014 | 2015 | 2016  | 2017 | 2018 | 2019 |
|-------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|
|       | H10   | H11  | H12   | H13  | H14  | H15  | H16  | H17  | H18   | H19  | H20  | H21  | H22   | H23  | H24   | H25  | H26  | H27  | H28   | H29  | H30  | H31  |
| 会 長   | 寺島 康純 |      |       |      |      |      |      |      | 甲斐 太治 |      |      |      | 大野 謙治 |      |       |      |      |      | 豊田 博志 |      |      |      |
| 副 会 長 | 平山 文彦 |      |       |      |      |      |      |      | 房前 隆也 |      |      |      | 豊田 博志 |      |       |      |      |      | 平山 文彦 |      |      |      |
| 監 事   | 房前 隆也 |      |       |      |      |      |      |      | 豊田 博志 |      |      |      | 平山 文彦 |      |       |      |      |      | 中村 隼三 |      |      |      |
| 事務局 長 | 椎原 猛  |      | 辛島 宗紀 |      |      |      |      |      | 木村 和宏 |      |      |      |       |      | 吉光 俊之 |      |      |      |       |      |      |      |



# 総会集合写真集

第10回～第21回



第10回総会 平成19年11月24日



第11回総会 平成20年11月29日



第12回総会 平成21年11月28日



第13回総会 平成22年11月6日



第14回総会 平成23年11月19日



第15回総会 平成24年12月8日



第16回総会 平成25年12月7日



第17回総会 平成26年12月6日



第18回総会 平成27年11月7日



第19回総会 平成28年12月3日



第20回総会 平成29年12月2日



第21回総会 平成30年12月8日



たかさき架け橋基金へ大支部より10万円 寄贈



平成23年11月第14回支部総会にて  
大野支部長から 石川 学長へ



(大分合同新聞社を訪問)

高崎経済大学長が来社  
高崎経済大学(群馬県高崎市)の石川弘道学長(顔写真)が7日、同窓会大分支部の会合のため来県し、大分合同新聞社を訪れた。石川学長は「公立大学としてあまり知られていないが、卒業生は全国各地で活躍。入学試験は福岡県でも実施しており、地域づくりなどに関心がある学生は進路選択の一つとして考えてほしい」と話した。同大学は1957年開校。経済と地域政策の2学部があり、学生は約4千人、卒業生は3万人に上る。

平成25年12月8日 大分合同新聞

高崎経済大学の魅力を感じる村山元展学長  
高崎経済大の村山学長来社  
大分市出身  
高崎経済大学(群馬県高崎市)の村山元展学長(60)が2日、同窓会大分支部の会合に出席するため来県。大分市の大分合同新聞社を訪れ、同大の魅力などを語った。



村山学長は大分市出身。大分舞鶴高校卒業後、岩手大学農学部で農業経済を学び、東京大学大学院で農学博士号を取得。1996年に高崎経済大の助教授となり、今年4月、学長に就任した。村山学長は「今は地方創成の時代。キャンパスでは全国各地から学生が集まって学び、古里へ持ち帰って地域の活性化に生かしている」と強調した。同大は1957年設立。経済学部と地域政策学部に約4千人が在学している。大分県出身の学生は5人。

平成29年12月3日 大分合同新聞

高経大の次期学長に村山氏  
高崎経済大は2日開いた理事会で、石川弘道学長(69)の任期満了に伴い、次期学長に村山元展副学長(59)を充てる人事を決めた。11月30日の学長選挙会で選出3人の候補の中から村山氏が選ばれていた。任期は来年4月から4年間。村山氏は2010年から3年間、地域政策学部長を務め、13年4月から現職。専門は地域農業論と農村地域政策論。

平成28年12月3日 上毛新聞



和気あいあいと情報交換

懇親会 ふぐ料理に舌鼓

高崎経済大同窓会大分支部

【大分市】高崎経済大学同窓会大分支部(大分三福会)の第21回支部総会が12月8日、同市のふぐ亭本店であった。会員22人が参加。大学から村山元展学長、本部同窓会の北島弘副会長が来賓として出席。年1回の総会に集まった会員は、和気あいあいとした雰囲気

の中、お互いの情報交換などを行った。総会終了後の懇親会で、ふぐ料理に舌鼓を打った。第22回総会に、県内在住の同窓生が多数参加することを期待して散会した。(事務局長の大分市、吉光俊之さん提供)

平成31年4月8日 大分合同新聞(夕刊)

# 高崎経済大学同窓会大分支部（大分三扇会）会則

## （第1章 総則）

第 1 条 本会は、高崎経済大学同窓会大分支部（以下、「大分三扇会」）という

第 2 条 本会は、会員相互の親睦を図り、かつ母校及び関連機関との連絡を綿密にし、  
以って母校の発展に寄与することをその目的とする

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行なう

1. 懇親会等の親睦事業の開催
2. その他必要と認められた事業

## （第2章 組織）

第 4 条 本会は、次の会員をもって組織する

1. 高崎経済大学卒業生及び在学学生
2. 本会の承認を得た特別会員

第 5 条 大分三扇会の事務局は事務局長の現住所に置く

## （第3章 役員）

第 6 条 本会に次の役員を置く

- |         |    |        |    |
|---------|----|--------|----|
| 1. 会 長  | 1名 | 2. 副会長 | 1名 |
| 3. 事務局長 | 1名 | 4. 監 事 | 1名 |

第 7 条 役員職務

1. 会長は本会を代表し、会務を掌理する
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、これを代行する
3. 事務局長は会長および副会長を補佐するとともに、会務、会計事務を処理する
4. 監事は会計を監査する

第 8 条 役員のうち会長、副会長および監事については総会において選出し、事務局長は会長が指名する

第 9 条 役員任期は2年間とし、再任を妨げない

## （第4章 会議）

第 10 条 1. 総会は1年に1度開催するものとし、会長がこれを召集する

2. 役員会は会長・副会長・事務局長・監事をもって構成し、必要に応じ開催する

第 11 条 1. 総会の議長は、会長が務める

2. 総会における議事は、出席会員の過半数の賛成をもって可決する

## （第5章 会費及び会計）

第 12 条 1. 総会及び懇親会において運営費相応分の会費を徴収する

但し事前の連絡をもって総会時に徴収する

2. 事務局費として年間10,000円以内を支給する

第 13 条 会計報告は年1回、総会において事務局長が報告し、監事が監査報告を行う

第 14 条 本会の会計年度は、毎年10月1日より始まり翌年9月30日で終わる

## （第6章 補則）

第 15 条 大分三扇会を代表して他支部との交流などの同窓会行事に参加する会員に対しては、会費の他に  
別途宿泊交通費として実費を支部会計より補助するものとする

第 16 条 この会則に特に定めのない事項については役員会で協議し決定することができる

（附則） この会則は、平成13年（2001年）11月17日より施行する  
平成15年（2003年）11月15日 一部改訂  
平成29年（2017年）12月 2日 一部改訂  
平成30年（2018年）12月 8日 一部改訂

## ☆ 学 章



高崎城址に創立された本学にちなみ、善政をもって領民に臨んだ高崎城主大河内氏の家紋三ツ扇に由来します。外廓の扇は永遠の発展性と上州の山岳美、中央部の三角形は名峰赤城、榛名、妙義を示しユニークな本学を象徴します。



(大河内家 家紋)

## ☆ 沿 革

高崎経済大学設立の淵源は、高崎市立短期大学に遡ります。群馬県下にあった高等教育機関は、戦後の学制改革時の1949年、新制群馬大学として統合・発足しました。

当時、高崎市は県下第一の商都にふさわしい経済学部の誘致を図ったものの、戦後の経済事情等から新設学部の設置は不可能でした。

そこで、独自に1952年高崎市立短期大学商経科を創設

その後、経済発展等諸般の事情から、

1957年に高崎市立短期大学を廃止し、4年制大学を設置することになり、高崎経済大学経済学部経済学科として、1957年発足しました。

その後の 学部、学科、研究科の設定の流れ

- 1957年 [昭和32年] 高崎経済大学 開学 (経済学部経済学科)
- 1964年 [昭和39年] 経済学部経営学科設置
- 1996年 [平成 8年] 地域政策学部地域政策学科設置
- 2000年 [平成12年] 大学院地域政策研究科 (修士課程) 設置
- 2002年 [平成14年] 大学院地域政策研究科 (博士後期課程) 設置
- 2002年 [平成14年] 大学院経済・経営研究科 (修士課程) 設置
- 2003年 [平成15年] 地域政策学部地域づくり学科設置
- 2004年 [平成16年] 大学院経済・経営研究科 (博士後期課程) 設置
- 2006年 [平成18年] 地域政策学部観光政策学科設置
- 2011年 [平成23年] 公立大学法人高崎経済大学設立
- 2017年 [平成29年] 経済学部国際学科設置

<高崎経済大学 HP より>

## ☆ 学 歌

- 「学ぶ我等」
- 一 高崎経大 我等若し  
心理を求めて常に若し  
西には妙義 浅間 北には榛名  
厳しき試験の 嵐に耐えて  
雄々しく学ぶ我等  
高崎経大
- 二 高崎経大 我等尊し  
人たる道をば 行きて尊し  
時流は如何に 荒れ狂うとも  
愛 慈悲 仁の観音山を  
望みて学ぶ我等  
高崎経大
- 三 高崎経大 我等強し  
天に合して ひたに強し  
世界歴史の 流れを見つめ  
日本文化の その三ツ扇  
要を学ぶ我等  
高崎経大



初代 大分三扇会 会長

故 寺嶋 康純 氏  
( 昭和38年卒 4回生 )

大分三扇会の創設にご尽力いただき、  
今日の大分三扇会の礎を  
築いてくださいました。

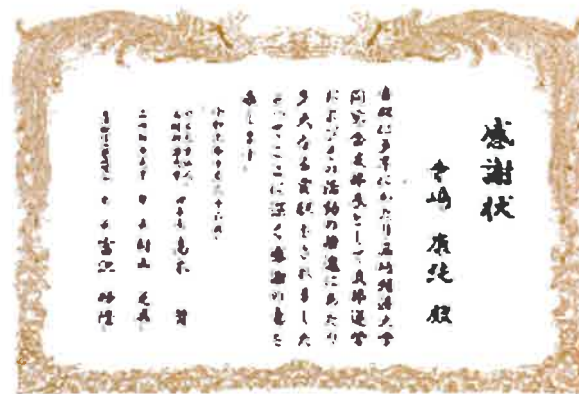
初代会長を務められ2006年（平成18年）  
11月、ご逝去されるまでの約8年間、  
支部の発展に寄与していただきました。



本誌の「会員からのページ」 P4、P8 に  
寺嶋先輩との思い出が掲載されています。

本年の支部総会（令和元年10月26日）にて  
寺嶋元会長に感謝状が贈呈されました。

改めて寺嶋元会長の貢献に感謝すると共に  
心からご冥福をお祈り申し上げます。



…編集後記…

大分三扇会は、発足以前 大分県内の「大分県庁」「大分銀行」「トキハインダストリー」等の各職場ごとに同窓会が開催されていた。後に 初代会長である寺嶋康純氏を中心として 各職場の同窓生が集まり、不定期ではあるが懇親会を開催していった。

そうした中、平成8年（1996年）に 平山文彦氏・豊田博志氏を発起人として13名が集まり懇親会を開催、更に 2度の懇親会を経て平成10年（1998年）、九州で初の大分支部・大分三扇会の創立となった。

平成10年11月14日 第1回の総会を開催し 寺嶋康純氏が初代 会長に就任した。以降、毎年 総会が定期開催されることとなった。

平成22年（2010年）の第13回総会以降若い平成卒業の同窓生が参加、平均年齢を押し下げてくれました。

そして平成29年（2017年）12月 第20回の総会が開催され20周年を迎えることが出来ました。

これまでに大分三扇会を牽引していただいた歴代の会長及び事務局長には感謝申し上げます。

第20回総会で事務局長の大役を引き受け、20年の積み重ねを何か形に残したいという思いから、「20周年記念誌」の作成を総会で提案いたしました。（提案してはみたものの本当に出来るかなあ？と思いつつ）

そして、本年、大分三扇会の会員みなさまに 記念誌への投稿をお願いした次第です。名簿掲載の全ての方にご案内させていただきました。正直、7～8名ほどから原稿の提出があるかなあ？と不安がよぎりました。蓋を開けてみると21名の同窓生から原稿の提出を頂き、皆様の **高経大 ”愛”**を感じた次第です。

今回、みなさまへ 本誌と最新の高崎経済大学の冊子をお届けいたしました。

会員のページからは皆様それぞれに、高崎経済大学という存在が、如何にその後の人生に影響を与えたのか読み解くことが出来ます。

本誌を作成するにあたり、原稿をご提出いただいた皆様は勿論のこと、同窓会本部の山崎様には資料提出のお願い等快く、ご対応頂き感謝申し上げます。

本誌が今後の大分三扇会の親睦の輪が広がる一助となることを願っています。

( 文 吉光 俊之 )

## 大分三扇会20年の歩み

2019年(令和元年)10月発行

高崎経済大学同窓会大分支部 大分三扇会

|       |       |
|-------|-------|
| 編集委員長 | 豊田 博志 |
| 編集委員  | 平山 文彦 |
|       | 中村 詠三 |
|       | 木村 和宏 |
| 編集責任者 | 吉光 俊之 |

事務局

〒870-0822

大分市大道町5-4-60-402

E-mail: [oita.mitsuougi@gmail.com](mailto:oita.mitsuougi@gmail.com)



高崎経済大学同窓会